

富山県の小学校校歌をつくった人たち ～作詞者及び作曲者の観点から～

The Lyric Writers and the Composers
that made the Elementary School Songs in Toyama Prefecture

堀 江 英 一
HORIE Hidekazu

小澤達三『富山県校歌全集』に基づき、富山県内の小学校校歌の作詞・作曲者について、地域的な特徴と時代別の特徴を明らかにした。また、作詞・作曲者の出身地や経歴を調査するとともに、現在の小学校、統合された小学校、休校になった学校ごとの一覧を作成した。作成の過程で、前掲書に掲載されなかった小学校、制定年等の訂正、新たに判明した作詞・作曲者名も含めることができた。

キーワード： 富山県、小学校、校歌、作詞者、作曲者

I 問題の所在

小澤達三による『富山県校歌全集』（1979年、パラマウント社）は、出版当時の富山県内のすべての種類の学校の校歌が楽譜つきで紹介されている貴重な文献である。しかし、世に出てからすでに35年の歳月が流れ、この間富山県内では小学校の統廃合が進み、出版当時とはずいぶん状況が異なってきている。廃校になって校歌が歌われなくなったり、学校統合により新しい校歌が生まれたりしている状況が見られるのである。

従って、今はもう歌われなくなった校歌と、その後新しく生まれた校歌を作詞作曲者名とともに分類し直す必要性が生じている。

『富山県校歌全集』に掲載された小学校の校歌のうち、制定年不詳のものを除き最も古いものは、1894（明治24）年に制定された旧婦負郡婦中町・現富山市の千里小の校歌である。また、今もなお歌われている校歌のうち最も古いものは、1907（明治40）年に制定された富山市立四方小の校歌である。以後現在までの約120年間には数多くの校歌が生まれているが、それらの作詞者及び作曲者を地域ごと、年代ごとに明らかにしていくことも意義深いと考える。

『富山県校歌全集』には、『余滴』と題された別冊が添付されている。これには、全集に掲載された校歌の作詞者及び作曲者の経歴がそれぞれ50音順に掲載されている。個別に眺めると、

さまざまな経歴をもつ人物が作詞をしたり作曲をしたりして興味深い。これをもう一度地域別及び年代別の一覧にして見ると、新たな事実が浮かび上がるのではないかと。

2010（平成 22）年、富山県ひとつくり財団と富山県教育記念館によって『校名・校章・校歌と教育への期待』が編集された。これには、編集時の富山県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、高等専門学校の校名・校章・校歌の由来と沿革がすべて掲載されている。

その後、富山県内の小学校はさらに統廃合が進み、この文献も時代に合わなくなりつつある。

従って、現時点における富山県内の小学校校歌について、新たに生まれた統合小学校と廃校になった小学校を分類するとともに、どのような経歴をもつ作詞者と作曲者別が校歌制定に携わっていたのかを明らかにすることが必要であると考えた。

Ⅱ 研究の方法

①小澤達三『富山県校歌全集』及び富山県ひとつくり財団・富山県教育記念館編『校名・校章・校歌と教育への期待』（2010、富山県ひとつくり財団、未出版）に基づき、作詞者及び作曲者、制定年を明記した富山県下の小学校の統廃合校状況一覧を作成する。

②作詞者及び作曲者について出身地や経歴を含めて一覧にし、地域ごと、年代ごとにどのような人たちが作詞作曲を行ったのかを明らかにする。

Ⅲ 富山県の小学校校歌をつくった人たち

1 作詞者

(1) 地域別に見た場合

富山県内の小学校校歌を見ると、地元出身の名士が作詞している例が非常に多い。

下新川郡朝日町では、統廃合校合わせて 10 校中 6 校が地元出身者の作詞である。五箇庄小の廣川親義（朝日町教育委員長・歌人）、宮崎小と泊小の九里道守（鹿島神社宮司・歌人）、山崎小の山田蕃（泊町教育長）、南保小の大菅文治（泊町長）、大屋庄小の加藤鹿太郎（当時の校長）などである。統廃合以前の小学校では、8 校中 6 校がこれらの人たちによって作詞されている。残りの 2 校は、中新川郡立山町出身の中山輝（元北日本新聞社代表取締役・詩人）の作詞（境小及び笹川小）で、県東部の出身で広く富山県の名士といえる人物である。

下新川郡入善町では、統廃合校合わせて 14 校中 10 校が地元出身者である。そのうち校長を歴任した人物として小摺戸小の舛田秀郎（高等学校長歴任）、青木小の瀧田清（小中学校長歴任）、舟見小の脇坂邦作（小学校長歴任）、野中小の酒井善一（高等学校長歴任）、横山小の大久保由光（小学校長歴任）が挙げられるほか、統合された桃李小の山本光代のように初代校長自身が作詞している例も見られる。また、地元の小学校教員を勤め上げ、後に青木村の郵便局長になった入善小の廣川久秀のような人物もいる。

旧下新川郡宇奈月町を除く黒部市では、統廃合校全体 16 校中黒部市出身者が 6 名、隣の魚津市出身者が 3 名、滑川市及び入善町出身者が各 1 名で、合計 11 校となっている。そのうち校長を歴任した人物が東布施小、尾山小、田家小、石田小の川端三郎（黒部市出身、小学校長歴任）、若栗小の本瀬広吉（小学校長歴任）、中央小の河田敏雄（初代校長）、たかせ小の川上勝之（小学校長歴任）、中学校長経験者が村椿小の中田憲政（入善町出身）である。なかには、元海軍少将

で、初代黒部市教育長を務めた前沢小の朝倉豊次（黒部市出身）のような人物もいる。

旧下新川郡宇奈月町・現黒部市を見ると、宇奈月小の雪山俊之（宇奈月町浦山出身・元立命館大学教授・元富山女子短期大学教授）が挙げられるが、下立小の舟川栄次郎は泊町出身の詩人、浦山小の舛田秀郎は石川県珠洲市出身で県内高等学校長を歴任し富山女子短期大学教授になった人物、愛本小は立山町出身で元北日本新聞社代表取締役・詩人の中山輝である。

滑川市では、12校中4校（寺家小、田中小、西部小、西加積小）が滑川市出身の医師・詩人だった高島高の作詞で、2校（東加積小、山加積小）が旧加積村（現滑川市）の村長で県教育委員長を務め、童謡・民謡集を出版していた山本宗間の作詞である。

中新川郡上市町では、上市町の町長を務めた清水美晴が陽南小の校歌を、上市町出身で高等学校教員だった二宮正篤が白萩東部小の校歌を作詞している。また、隣の滑川市出身の高島高が相ノ木小の校歌を、旧加積村・現滑川市出身の山本宗間が白萩西部小、柿沢小、大岩小、白萩南部小、音杉小の校歌を作詞している。そして、上市町出身で武蔵野音楽大学創設者の福井直秋の長男、福井直俊がピアニストながら旧宮川小の校歌を作詞している。隣接する市町村出身者も含めて考えるならば、統廃合校全体14校中9校が地元出身者による作詞となる。統廃合以前の小学校では、10校中8校が地元出身者である。

氷見市では、朝日丘小、上余川小、稲積小、女良小の4校が氷見市出身で『富山県民の歌』の作詞者でもある辻本俊夫による。また、氷見市出身の校長経験者による作詞も多く、加納小、窪小、明和小、海峰小の高峯正岡（元氷見高等学校長）、一刎小の釜田弘文（中学校長歴任）、宮田小と布勢小の伏脇俊岩（高等学校長歴任）、宇波小の越田毅（小学校長歴任）となっている。余川小の嶋畑貫通、湖南小の山崎平樹は現職の校長として作詞を行っている。

旧東砺波郡城端町・現南砺市では、統廃合校全体5校（統廃合以前は4校）中2校（城端小、大鋸屋小）が城端町出身の開業医で市史編纂委員を務めた州崎哲二による。また、南山田小は砺波市出身で砺波管内の小中学校長を歴任した藤井一男、北野小は旧東砺波郡福野町・現南砺市出身で小学校長を歴任し、福野町教育長になった西部鷗杜による。

旧西砺波郡福光町・現南砺市では、地元出身者が大変多い。福光小、広瀬小の浅田ことは元小学校教員、石黒小の河合十郎は俳人、東太美小、山田小の野村玉枝は歌人、西太美小の富樫昌胤は詩人、福光東部小の北島助三郎は中山輝門下の詩人で、いずれも福光町出身者である。また、福光中部小の安カ川甚治は城端町出身で小学校長を歴任した人物、吉江小の喜志摩豊生は吉江村出身の元小学校長、福光南部小の鶴野直輔は福光町出身で小中学校長を歴任し、初代校長として福光南部小に在職中に作詞を行っている。

旧東砺波郡平村・現南砺市では、3校のうち東中江小の南谷虎雄が平村出身で平村役場職員を経て平村の教育長を務めた人物である。

旧東砺波郡上平村・現南砺市では、3校中皆葎小の宮崎貞吉が平村出身で小学校長を歴任した人物、西赤尾小の石田外茂一が金沢市出身ながら上平中学校長を務めた人物である。

旧東砺波郡利賀村・現南砺市では、3校中坂上小の片山佐太郎が利賀村・坂上小、旧東砺波郡井口村・現南砺市・井口中、旧西砺波郡福光町・現南砺市・吉江中の教頭を歴任した人物、利賀小の谷内義弘が利賀村出身で京都南砺利賀享友会の会員である。

上記の地域では、地元の学校の校長を歴任した人物や教育長を務めた人物、村長や町長を務め

た人物による作詞が多いことがわかる。地元とは無関係な著名人ではなく、地元生まれ、地元のために尽くして地元のことをよく知る人物が作詞しているのは、地域住民の郷土を愛する心、未来を担う子どもたちを地域全体で育て、郷土の未来を託そうとする願いの現れと考えることができよう。また、作詞をした人たちはその期待に応えられるだけの知性と教養をもった人たちであった。校歌作詞時の事情を想像すると、当時の地域に住む人たちの美しい郷土愛を感じるのは筆者だけではないだろう。

市町村合併以前の富山市、合併後に富山市になった旧婦負郡婦中町、同山田村、同八尾町、同旧細入村、旧上新川郡大山町、高岡市の小学校の校歌作詞者を見ると、上記の地域のように地元出身者が多いという傾向は見られない。

富山市について見ると、地元の名士が作詞している例はあるが上記の地域ほどではない。水橋西部小の飯田虎次郎は西水橋小学校長、水橋町長を務めた水橋出身の人物、水橋西部小の角川源義は水橋出身で角川書店の創設者、山室小の田部重治は山室小出身で登山家、『山と溪谷』の著者でも知られる。

旧上新川郡大山町・現富山市・小見小の野口香聞は大山町出身で大山町役場に勤めていた人物、旧婦負郡宮川村・現富山市・宮川小の清水徳義は宮川村出身で小学校長を歴任した人物、旧婦負郡婦中町・現富山市・音川小の若林芳雄は婦中町古里村出身の人物である。

これら以外の校歌作詞者では、富山大学名誉教授で富山市教育委員長を務めた大島文雄によるものが圧倒的に多く、大広田小、萩浦小、八幡小、草島小、倉垣小、山室中部小、新保小、寒江小、池多小、西田地方小、星井町小、奥田小の 12 校となっている。旧富山市周辺部を見ると、旧上新川郡大沢野町の大沢野小、同大山町の上滝小、文殊寺小、大庄小、旧婦負郡婦中町の神保小、同八尾町の下笹原小、野積小、保内小が大島文雄の作詞である。大島文雄は富山市岩瀬出身であるが、岩瀬地区に近い小学校も 5 校あるとはいえ、旧富山市と合併後に富山市に編入された地域を合わせると作詞した小学校が新旧富山市全域にわたっているため、それが作詞の直接の理由ではないように思われる。

高岡市について見ると、作詞者は多岐に渡っているが、富山市と同様に大島文雄の作詞が多い。石堤小、西五位小、博労小、千鳥丘小、立野小、万葉小、戸出東部小、戸出小、中田小、旧中田章の 10 校である。

小矢部市では、金沢市出身で教員を経て北日本新聞論説委員を務め、後に直木賞候補になり文壇入りを果たした木村外吉（筆名・暁文平）が、石動小、大谷小、正得小、荒川小、松沢小の校歌を作詞している。また、小矢部市東蟹谷村平桜出身で小矢部市長を務め、「メルヘンの町おやべ」を創り上げた松本正雄が津沢小、蟹谷小の校歌を作詞している。

砺波市の場合、作詞者は多岐に渡っているが、砺波市矢木出身で県議会議員や庄下村長を務めた根尾長次郎が庄下小の校歌を作詞しているほか、大島文雄が油田小、砺波北部小、東野尻小の校歌を作詞している。

富山県全体で比較的多く校歌の作詞を行っている人物を見てみると、まず中山輝が挙げられる。中山は 1905（明治 38）年に立山町福田生まれ、北陸タイムズ、富山日報を経て北日本新聞代表取締役を務め、1978（昭和 53）年に亡くなった詩人・民謡作詞家である。1927（昭和 2）年に日本海詩人連盟を結成し、『日本海詩人』『詩と民謡』を創刊している。詩集『石』『木になっ

た魚』、民謡集『虹』、童謡集『石段』などの作品がある。『布施谷節』等の伝承民謡の発掘・保存・普及に努めた富山県の名士である。

中山が作詞した小学校は、下新川郡朝日町・境小、下新川郡朝日町・笹川小、旧下新川郡宇奈月町・現黒部市・愛本小、魚津市・加積小、魚津市・西布施小、中新川郡立山町・新川東部小、中新川郡立山町・日中上野小、富山市・新庄小、旧上新川郡大山町・現富山市・福沢小、旧婦負郡細入村・現富山市・楡原小、旧婦負郡婦中町・現富山市・鶴坂小、旧婦負郡八尾町・現富山市・仁歩小、旧射水郡小杉町・現射水市・金山小、旧射水郡小杉町・現射水市・橋下条小、高岡市・東五位小、高岡市・西条小、高岡市・佐野小、高岡市・北般若小、砺波市・東般若小、旧東砺波郡庄川町・現南砺市・種田小、旧東砺波郡利賀村・現南砺市・旧利賀小、旧東砺波郡井波町・現南砺市・南山見小の22校である。

和田徳一は、1900（明治 33）年に徳島県に生まれ、富山師範学校教諭等を経て富山大学教授となり、1980（昭和 55）年に死去した県下における万葉研究の大家である。著作には、『越中俳諧史一芭蕉・浪化とその遺風』（1981年、桜楓社）、『魚津市と萬葉集』（1954年、魚津市文化財保存会）などがある。

和田が作詞した小学校は、下新川郡入善町・飯野小、下新川郡入善町・上原小、黒部市・荻生小、滑川市・中加積小、中新川郡立山町・新川西部小、富山市・針原小、富山市・豊田小、富山市・広田小、富山市・月岡小、富山市・長岡小、富山市・愛宕小、富山市・柳町小、旧婦負郡婦中町・現富山市・速星小、旧婦負郡山田村・現富山市・山田小、旧婦負郡八尾町・現富山市・桐谷小、旧新湊市・現射水市・堀岡小、高岡市・二上小、氷見市・南小、旧東砺波郡庄川町・現南砺市・雄神小、同庄川小、旧東砺波郡平村・現南砺市・下梨小の21校である。

また、中央文壇で活躍した詩人・作家は、下新川郡朝日町・さみさと小、富山市・新庄北小のこわせたまみ（絵本童話作家）、下新川郡入善町・上青小の山本和夫（児童文学作家）、滑川市・北加積小、中新川郡立山町・釜ヶ淵小、富山市・五福小の荻原井泉水（俳人）、滑川市・南部小の宮沢章二（詩人）、中新川郡立山町・旧立山芦峯小の前田鉄之助（詩人）、富山市・堀川小の石森延男（児童文学者）、旧婦負郡細入村・現富山市・猪谷小、旧新湊市・現射水市・新湊小、旧新湊市・現射水市・海老江小、高岡市・守山小の相馬御風（詩人）、富山市・神明小、富山市・奥田北小の阪田寛夫（詩人・小説家）、富山市・古沢小の松美佐雄（童話作家）、富山市・芝園小の大木惇夫（詩人）、富山市・五番町小のサトウハチロー、旧射水郡大門町・現射水市・二口小の藪田義雄（詩人）、旧射水郡大門町・現射水市・旧大門小、高岡市・国吉小の西條八十（詩人）、旧射水郡大門町・現射水市・統合大門小の曾野綾子（作家）、高岡市・成美小の土岐善麿（歌人）、高岡市・福田小の佐々木信綱（歌人）が挙げられる。

(2) 時代別に見た場合

① 校長・教職経験者

前述のように、富山県内の小学校の校歌は、わかっているうちで最も古いものは1894（明治27）年に遡るが、以後現在までに制定された校歌の作詞者を見ると、どの時代においても地元出身の名士、それも校長を歴任した人物の手になるものが目につく。

明治時代を見ると、校長経験者は旧新湊市・現射水市堀岡出身で四方小学校長や富山市の四方町長を務めた竹脇乙吉（富山市・四方小）、旧西砺波郡吉江村・現南砺市出身で水橋小学校長を

務めた喜志摩豊生（旧西砺波郡福光町・現南砺市・吉江小）、高岡市出身で平米小学校長を務めた小林守直（高岡市・横田小）が挙げられる。

大正時代に入ると、校長経験者は旧射水郡小杉町・現射水市下条出身で浅井小学校長、村会議員も務めた荒井玄策（旧射水郡大門町・現射水市・浅井小）、高岡市出身で平米小学校長を務めた小林守直（高岡市・川原小）、下新川郡入善町舟見出身で小学校長を歴任した脇坂邦作（下新川郡入善町・舟見小）、高等学校長を歴任した伏脇俊岩（氷見市・布勢小）が挙げられる。

昭和から太平洋戦争開戦前まででは、校長経験者は高岡市出身で川原小、平米小学校長を務めた小林守直（高岡市・川原小、同平米小）、立山町出身の山林清作（中新川郡舟橋村・舟橋小、現職校長で作詞、現職のまま没）、校長歴任者は石川県珠洲市出身で高等学校長を歴任し、富山女子短期大学教授も務めた耕田秀郎（下新川郡入善町・小摺戸小、旧下新川郡宇奈月町・現黒部市・浦山小）、黒部市生地出身で小学校長を歴任した川端三郎（黒部市・石田小、黒部市・尾山小）、旧婦負郡宮川村・現富山市出身で小学校長を歴任した清水徳義（旧婦負郡宮川村・現富山市・宮川小、同八尾町・八尾小、現職校長として作詞）、小学校長を歴任した藤沢米二（富山市・八人町小）、黒部市若栗出身で小学校長を歴任した本瀬広吉（黒部市・若栗小）、高等学校長を歴任した伏脇俊岩（氷見市・宮田小）が挙げられる。

太平洋戦争時では、校長経験者は下新川郡入善町出身で元入善第二中学校長、俳人でもあった中田憲政（黒部市・村椿小）、高岡市伏木出身で小学校長を歴任した山崎正二（高岡市・二塚小）が挙げられる。

戦後に入ると、校長経験者は富山市出身で小中学校長を務めた高田善治（富山市・安野屋小）、金沢市出身で元上平中学校長の石田外茂一（旧東砺波郡平村・現南砺市・西赤尾小）、詩人でもあり、富山市・呉羽小学校長を務めた寺津幸治（富山市・東部小）、旧上新川郡大沢野町・現富山市出身で大久保小学校長を務めた堀田虎二（旧上新川郡大沢野町・現富山市・大久保小）、旧西砺波郡福光町・現南砺市出身で砺波中学校長を務めた吉波彦吉（小矢部市・水島小）、富山市・山室小学校長を務めた鈴木正雄（富山市・藤ノ木小）、富山市水橋出身で西水橋小学校長の後町長を務めた飯田虎次郎（富山市・水橋西部小）、氷見市出身で氷見高等学校長を務め、光伝寺住職でもあった高峯正岡（氷見市・窪小、氷見市・明和小）、砺波市出身で元太田小学校長の水上秀夫（砺波市・太田小）、高等学校長を務めた青塚与市（砺波市・砺波南部小）、校長歴任者は旧東砺波郡平村・現南砺市出身で小学校長を歴任した宮崎貞吉（旧東砺波郡平村・現南砺市・皆葎小）、旧東砺波郡福野町・現南砺市出身で詩人でもあり、小学校長を歴任した西部鷗杜（旧東砺波郡城端町・現南砺市・北野小）、小学校長を歴任した島木茂樹（旧新湊市・現射水市・放生津小）、旧西砺波郡福岡町・現高岡市出身で小学校長を歴任した柴田富治（旧西砺波郡・現高岡市・山王小）、小中学校長を歴任した瀧田清（下新川郡入善町・青木小）、中新川郡立山町五百石出身で小学校長を歴任した上田正一（富山市・水橋東部小）、氷見市出身で小学校長を歴任した越田毅（氷見市・宇波小）、魚津市出身で中学校長を歴任した浦田三郎（魚津市・上中島小）、氷見市上余川出身で中学校長を歴任した釜田弘文（氷見市・一刎小）、下新川郡朝日町出身で小学校長を歴任した大久保由光（下新川郡入善町・横山小）、魚津市出身で小学校長を歴任した広瀬新作（魚津市・経田小、魚津市・本江小）、下新川郡入善町野中出身で高等学校長を歴任した酒井善一（下新川郡入善町・野中小）、旧西砺波郡福光町・現南砺市出身で小学校長を歴任した

石崎恒夫（高岡市・湊ヶ谷小）、魚津市出身で小学校長を歴任した寺崎文二（魚津市・上野方小）、旧西砺波郡福岡町・現高岡市出身で高等学校長を歴任した川人貞現（高岡市・赤丸小）、高岡市出身で小学校長を歴任した前田義明（氷見市・藪田小）、砺波市上中野出身で小学校長を歴任した藤井一男（旧東砺波郡城端町・現南砺市・南山田小）、黒部市生地出身で小学校長を歴任した川端三郎（黒部市・田家小、黒部市・東布施小）、富山市水橋出身で小学校長を歴任した杉木方之（富山市・上条小）、旧西砺波郡福岡町・現高岡市出身で小学校長を歴任した岡田宅平（旧西砺波郡・現高岡市・福岡小）、砺波市梅檀野出身で小学校長を歴任した島田憲一（旧東砺波郡井波町・現南砺市・井波小）、旧西砺波郡福光町・現南砺市出身で小中学校長を歴任した鶴野直輔（旧西砺波郡福光町・現南砺市・福光南部小、初代校長時に作詞）、旧射水郡小杉町・現射水市戸破出身で小学校長を歴任した二俣重橋（旧射水郡小杉町・現射水市・小杉小）、氷見市出身で小学校長を歴任した山崎平樹（氷見市・湖南小、現職校長時に作詞）、旧東砺波郡城端町・現南砺市出身で小学校長を歴任した安カ川甚治（旧東砺波郡上平村・現南砺市・上平小、旧西砺波郡福光町・現南砺市・福光中部小）、小学校長だった河田敏雄（黒部市・中央小、初代校長として作詞）が挙げられる。

平成時代では、山本光代（下新川郡入善町・桃李小、初代校長として作詞）、小学校長だった川上勝之（黒部市・たかせ小、統合された黒部市・田家小の校長）が挙げられる。

校長経験者以外にも、現職の教員が作詞している例も若干見られる。

こうして見ると、これらの人たちは、地元出身で郷土の教育に尽力した人たちであることがわかる。明治の時代から現在に至るまで、一貫して地元出身の校長経験者が作詞を担当しているのは、やはり地域の人たちの郷土愛からきているのであろう。

②地元の名士たち

各時代を通して、地元の名士といえる人たちの名前も見られる。

明治時代では、旧新湊市・現射水市堀岡出身で元富山市四方町長の竹脇乙吉（富山市・四方小）、下新川郡入善町出身で教員生活の後村の郵便局長を務めた廣川久秀（下新川郡入善町・入善小）が挙げられる。

大正時代では、旧射水郡小杉町・現射水市下条出身で校長の後村会議員を務めた荒井玄策（旧射水郡大門町・現射水市・浅井小）、旧東砺波郡福野町・南砺市出身で県会議員・衆議院議員を務め、両砺銀行を設立し頭取となった西能源四郎（旧東砺波郡福野町・現南砺市・福野南部小）が挙げられる。

昭和に入ると、戦前では下新川郡山崎村出身で泊町教育長だった山田蕃（下新川郡朝日町・山崎小）、下新川郡泊村出身で泊町長を務めた大菅文治（下新川郡朝日町・南保小）、東京都出身の俳人で報知新聞富山支局長だった前田普羅（下新川郡入善町・櫛山小、旧東砺波郡福野町・現南砺市・旧野尻小）、旧東砺波郡福野町・現南砺市出身で県神社庁副長を務めた河合正則（小矢部市・旧津沢小）、下新川郡入善町野中出身で北日本新聞社呉東総局長を務め、朝日町教育委員長だった廣川親義（下新川郡朝日町・五箇庄小）、砺波市出身で東京音楽学校学長を務めた乗杉嘉壽（砺波市・出町小）が挙げられる。

戦後では、旧中新川郡加積村・現滑川市出身で村長を務めた山本宗間（滑川市・東加積小、富山市・旧熊野小、旧婦負郡熊野村・現富山市・熊野小、中新川郡上市町・大岩小、同音杉小、同

白萩西部小、同柿沢小、同白萩南部小、滑川市・山加積小)、滑川市出身の詩人、高島高(滑川市・寺家小、同田中小、中新川郡上市町・相ノ木小)、黒部市前沢出身で海軍少将、黒部市初代教育長を務めた朝倉豊次(黒部市・前沢小)、富山市北代出身で朝日村中堂寺住職だった五十嵐教苑(富山市・朝日小)、高岡市出身の作曲家、室崎琴月(高岡市・小勢小)、旧東砺波郡高瀬村・現南砺市出身で金沢新報論説委員だった土田行丸(旧東砺波郡井波町・現南砺市・高瀬小)、旧東砺波郡城端町・現南砺市出身の開業医で市史編纂委員だった州崎哲二(旧東砺波郡城端町・現南砺市・大鋸屋小、同城端小)、金沢市出身で教員生活の後北日本新聞社論説委員を務め、文壇入りした木村外吉(小矢部市・東部小、小矢部市・石動小・筆名暁文平を使用、小矢部市・大谷小)、下新川郡入善町野中出身で北日本新聞社呉東総局長を務め、朝日町教育委員長だった廣川親義(高岡市・西広谷小)、氷見市出身の詩人で『富山県民の歌』の作詞者でもある辻本俊夫(氷見市・稲積小)、氷見市島尾出身で氷見市教育長を務めた村田豊二(氷見市・岩瀬小)、旧東砺波郡北山田村・現南砺市出身で北陸朝日新聞社を経て村会議員となった歌人の荒井光隆(旧西砺波郡福光町・現南砺市・北山田小)、旧東砺波郡平村・現南砺市出身で平村の教育長を務めた南谷虎雄(旧東砺波郡平村・現南砺市・東中江小)、中国天津出身の詩人で県副知事を務めた小林謙(砺波市・砺波東部小、滑川市・東部小)、旧射水郡小杉町・現射水市出身で町長を務めた渡辺孝(旧射水郡小杉町・現射水市・中太閤山小)が挙げられる。

これらの人たちもまた、地元生まれ、地元のために尽くした人であり、地域に住む人たちにとって郷土の未来を託す子どもたちの校歌の作詞者としてふさわしいと考えられたのだろう。

(3) 主な作詞者たち

① 和田徳一

和田徳一は、1900(明治 33)年に徳島県生まれ、富山大学教授、県内の万葉研究の大家として知られる。1957(昭和 32)年には富山大学教育学部附属中学校長を務め(1959年再選)、1980(昭和 55)年に80歳で死去している。

記録に見られる中で最も古い作詞は、和田が38歳の時の1938(昭和 13)年に制定された旧婦負郡山田村・現富山市の山田小のものである。3年後の1941(昭和 16)年には滑川市の中加積小の校歌を作詞している。この年は、太平洋戦争が始まった年でもある。

次に和田が県内小学校の校歌を作詞するのは1951(昭和 26)年になる。この年は、1947(昭和 22)年の学習指導要領が改訂された年でもある。和田の作詞になる校歌は、和田が富山大学教育学部に勤務していた時代の1951(昭和 26)年頃から、富山大学教育学部附属中学校長を務めた1957(昭和 32)年頃までに集中している。和田が作詞した小学校を制定年順に並べると次のようになる。(以下に記す年表の年はすべて制定年である)

1938(昭和 13)年	38歳	旧婦負郡山田村・現富山市・山田小
1941(昭和 16)年	41歳	滑川市・中加積小
1951(昭和 26)年	51歳	高岡市・二上小、(富山市・山室中)
1952(昭和 27)年	52歳	中新川郡立山町・新川西部小、富山市・愛宕小
1953(昭和 28)年	53歳	黒部市・荻生小、旧婦負郡八尾町・現富山市・桐谷小、富山市・柳町小、旧新湊市・現射水市・堀岡小
1954(昭和 29)年	54歳	富山市・広田小、旧婦負郡婦中町・現富山市・速星小

- 1955 (昭和 30) 年 55 歳 旧東砺波郡庄川町・現南砺市・雄神小、富山市・豊田小、富山市・長岡小
- 1957 (昭和 32) 年 57 歳 下新川郡入善町・上原小、旧東砺波郡平村・現南砺市・下梨小
〔富山大学教育学部附属中学校長 (～昭和 38 年)〕
- 1960 (昭和 35) 年 60 歳 富山市・月岡小
- 1963 (昭和 38) 年 63 歳 下新川郡入善町・飯野小
- 1968 (昭和 43) 年 68 歳 旧東砺波郡庄川町・現南砺市・庄川小
- 1975 (昭和 50) 年 75 歳 (氷見市・北部中)
不詳 富山市・針原小、氷見市・南小

県内の万葉研究における第一人者として、また富山大学教育学部教授、富山大学教育学部附属中学校長として最も充実した日々を送っていた頃に数多く作詞していることがわかる。

②大島文雄

大島文雄は、1902 (明治 35) 年に富山市岩瀬に生まれ、1926 (大正 15) 年に東京帝国大学文学部国文科卒業、1927 (昭和 2) 年に旧制富山高等学校教授、1949 (昭和 24) 年に富山大学文理学部教授となり、1968 (昭和 43) 年に退官、同年富山女子短期大学教授となった人物である。その後は 1970 (昭和 45) 年に富山市教育委員長、1992 (昭和 57) 年からは富山県芸術文化協会長を務め、1991 (平成 3) 年に 80 歳で死去している。富山県内のさまざまな学校の校歌を数多く作詞したことで知られる。

大島が作詞した富山県内の小学校の校歌を制定年順に学校名で並べると次のようになる。

- 1948 (昭和 23) 年 46 歳 (富山市・北部中)
- 1949 (昭和 24) 年 47 歳 (富山市・岩瀬中)
〔富山大学文理学部教授〕
- 1950 (昭和 25) 年 48 歳 富山市・大広田小、(富山市・和合中、富山市・呉羽中、旧婦負郡八尾町・現富山市・八尾中、旧新湊市・現射水市・射北中、高岡市・中田中、旧東砺波郡庄川町・現南砺市・庄川中、旧東砺波郡城端町・現南砺市・城端中、旧東砺波郡井口村・現南砺市・井口中、富山市・富山北部高)
- 1951 (昭和 26) 年 49 歳 (富山市・新庄中、旧上新川郡大沢野町・現富山市・大沢野中、旧婦負郡婦中町・現富山市・速星中、同城山中、旧婦負郡山田村・現富山市・山田中、高岡市・高岡東部中→高陵中、富山市・不二越工業高)
- 1952 (昭和 27) 年 50 歳 中新川郡上市町・南加積小、富山市・池多小、富山市・西田地方小、旧新湊市・現射水市・片口小、(旧射水郡小杉町・現射水市・小杉中)
- 1953 (昭和 28) 年 51 歳 旧上新川郡大山町・現富山市・文殊寺小、同・上滝小、砺波市・東野尻小、旧射水郡下村・現射水市・下村小、砺波市・西野尻小、高岡市・旧中田小、(中新川郡立山町・立山中)
- 1954 (昭和 29) 年 52 歳 富山市・萩浦小、富山市・八幡小、旧婦負郡婦中町・現富山市・

- 神保小、旧射水郡小杉町・現射水市・大江小、旧婦負郡八尾町・
現富山市・保内小、(富山市・大泉中、富山市・富山高)
- 1955 (昭和 30) 年 53 歳 旧上新川郡大山町・現富山市・大庄小、高岡市・博労小、(富山市・月岡中)
- 1956 (昭和 31) 年 54 歳 高岡市・立野小、(富山市・富山女子高)
- 1957 (昭和 32) 年 55 歳 旧西砺波郡福光町・現南砺市・太美小、砺波市・油田小、(旧婦負郡八尾町・現富山市・野積中、旧西砺波郡福光町・現南砺市・太美中、旧婦負郡婦中町・現富山市・音川中)
- 1959 (昭和 34) 年 57 歳 高岡市・戸出小、富山市・寒江小、旧新湊市・現射水市・作道小
- 1960 (昭和 35) 年 58 歳 富山市・奥田小、小矢部市・北蟹谷小、(富山市・西部中、高岡市・保育専門学院)
- 1961 (昭和 36) 年 59 歳 富山市・草島小、富山市・倉垣小、富山市・新保小、高岡市・石堤小、旧射水郡小杉町・現射水市・黒河小、(旧東砺波郡井波町・現南砺波市・井波高、旧上新川郡大山町・現富山市・大沢野工業高)
- 1962 (昭和 37) 年 60 歳 旧婦負郡八尾町・現富山市・野積小、旧西砺波郡福岡町・現高岡市・西五位小、(高岡市・高岡東高→高岡日大高→高岡向陵高、富山市・北日本電波高→高朋高)
- 1963 (昭和 38) 年 61 歳 旧婦負郡八尾町・現富山市・下笹原小、富山市・星井町小、旧東砺波郡平村・現南砺市・下梨小梨谷分校
- 1964 (昭和 39) 年 62 歳 (砺波市・砺波工業高、富山市・富山女子短大)
- 1966 (昭和 41) 年 64 歳 旧上新川郡大沢野町・現富山市・大沢野小、高岡市・中田小 (統合)、旧射水郡大門町・現射水市・大門小、(高岡市・志貴野高、富山市・富山産業高→中央農業高)
- 1968 (昭和 43) 年 66 歳 高岡市・千鳥丘小、高岡市・戸出東部小、(小矢部市・小矢部産業高、富山養護学校)
〔富山大学退官〕
- 1969 (昭和 44) 年 67 歳 旧東砺波郡福野町・現南砺市・福野小、(旧新湊市・現射水市・富山商船高専)
- 1970 (昭和 45) 年 68 歳 (高岡市・牧野中)
〔富山市教育委員長〕
- 1971 (昭和 46) 年 69 歳 (旧射水郡大門町・現射水市・大門中)
- 1972 (昭和 47) 年 70 歳 砺波市・砺波北部小
- 1973 (昭和 48) 年 71 歳 旧射水郡小杉町・現射水市・太閤山小
- 1975 (昭和 50) 年 73 歳 旧新湊市・現射水市・東明小
- 1976 (昭和 51) 年 74 歳 (富山市・富山南高、富山市・富山大経済学部)
- 1977 (昭和 52) 年 75 歳 富山市・山室中部小
- 1979 (昭和 54) 年 77 歳 中新川郡立山町・立山岩嶺小、高岡市・万葉小

1983 (昭和 58) 年 81 歳 旧射水郡小杉町・現射水市・歌の森小、(富山市・興南中)

1988 (昭和 63) 年 86 歳 (富山市・藤ノ木中)

不詳 (こまどり養護学校)

これを見ると、40代後半から80代後半まで実に多くの校歌を作詞しており、その数は驚異的である。いかに大島が校歌の作詞者として絶対的な信頼を得ていたかがわかる。

大島が初めて富山県内小学校の校歌を作詞したのは、1950 (昭和 25) 年、48歳の時に作詞した富山市・大広田小の校歌である。六・三・三・四制の新教育課程になり、新制中学校が発足した1947 (昭和 22) 年の翌年から1952 (昭和 27) 年までの5年間は富山県内の中学校の校歌を数多く作詞している。とりわけ1950 (昭和 25) 年には数が多く、8校にもなっている。

新制度になったとはいえ、校舎や設備もままならず、教員の確保から始めなければならなかったという状況ではあったが、現場は新しい教育への希望に満ちあふれていたという。従って、校歌を新たに制定し、新制中学校にふさわしい体制を整えようとした動きがあったとしても不思議ではない。

1952 (昭和 27) 年からは、小学校の校歌の作詞が毎年のように続く。この間、中学校校歌の作詞は間隔を置いて数校あるだけである。

これは、和田徳一の項でも述べたように、1951 (昭和 26) 年の学習指導要領第一次改訂がきっかけとなっているように思える。なぜならば、この年の翌年から小学校校歌が数多く作詞されていくからである。

③中山輝

中山輝は、1905 (明治 38) 年に中新川郡立山町福田に生まれ、1957 (昭和 32) 年 11月から1958 (昭和 33) 年 1月まで北日本新聞社代表取締役を務め、1977 (昭和 52) 年に死去した郷土詩壇の名士である。

中山が作詞した富山県内小学校 22校の校歌を制定年順に学校名で並べると、次のようになる。

1947 (昭和 22) 年 42 歳 下新川郡朝日町・境小

1948 (昭和 23) 年 43 歳 下新川郡朝日町・笹川小

1949 (昭和 24) 年 44 歳 (下新川郡朝日町・泊高)

1950 (昭和 25) 年 45 歳 高岡市・佐野小、(砺波市・般若中、中新川郡上市町・上市高、高岡市・伏木高)

1951 (昭和 26) 年 46 歳 旧下新川郡宇奈月町・現黒部市・愛本小、旧婦負郡婦中町・現富山市・鶴坂小、高岡市・西条小、(旧東砺波郡平村・現南砺市・上平中)

1952 (昭和 27) 年 47 歳 富山市・新庄小、(氷見市・南部中)

1953 (昭和 28) 年 48 歳 中新川郡立山町・新川東部小、魚津市・西布施小、旧中婦負郡細入村・現富山市・楡原小、旧上新川郡大山町・現富山市・福沢小、魚津市・西布施小、中新川郡立山町・日中上野小

1954 (昭和 29) 年 49 歳 旧射水郡小杉町・現射水市・橋下条小、高岡市・北般若小、旧東砺波郡庄川町・現砺波市・種田小

1955 (昭和 30) 年 50 歳 高岡市・東五位小

- 1956 (昭和 31) 年 51 歳 (旧婦負郡細入村・現富山市・猪谷中)
〔詩『お嘉代』『野分』『月の出の坂』『菜種畑で』『きりぎりす』
〔『現代民謡選』〕、『カラスと木 (2)』〔『詩と民謡』〕〕
- 1957 (昭和 32) 年 52 歳 旧射水郡小杉町・現射水市・金山小
〔北日本新聞社代表取締役就任〕
- 1958 (昭和 33) 年 53 歳 砺波市・東般若小
〔北日本新聞社代表取締役退任〕
〔詩『山と川と町』『廃句抄』〔『詩と民謡』〕〕
- 1960 (昭和 35) 年 55 歳 〔詩『点』『山』『谷』『背』〔『詩と民謡』〕〕
- 1962 (昭和 37) 年 57 歳 旧東砺波郡利賀村・現南砺市・旧利賀小
- 1975 (昭和 50) 年 70 歳 旧婦負郡八尾町・現富山市・仁歩小
不詳 魚津市・加積小、旧東砺波郡井波町・現南砺市・南山見小、(旧
婦負郡八尾町・現富山市・仁歩中)

こうして見ると、詩人・民謡作家として、仕事人として最も充実していた 40 代から 50 代前半にかけて、作詞が集中しているのがわかる。

戦後になって新しい教育体制が発足し、校歌制定の気運が高まりつつあったちょうどその時期に、和田徳一、大島文雄、中山輝の 3 人が最も人生の充実期にあったことは幸いであった。

さらに大島文雄は、その後も次々と校歌を作詞し、富山県の教育界に多大な貢献を成し遂げたといえるだろう。筆者は、1988 (昭和 63) 年に新設された富山市立藤ノ木中学校に同年赴任し、作詞者の大島文雄氏、作曲者の大澤欽治氏立ち会いのもと、校旗・校歌樹立式を実際に経験している。今思い返せば、この時の校歌が大島文雄氏最後の作詞だったことになる。

2 作曲者

(1) 地域別に見た場合

富山県内の小学校校歌の作曲者を見ると、作詞者と同様に各地域で地元出身者が作曲している例が見られる。

下新川郡朝日町は、同町泊出身の黒坂 (川上) 富治によるものが多い。黒坂富治は、1911 (明治 44) 年に生まれ、1931 (昭和 6) 年に富山県師範学校卒業、1936 (昭和 11) 年に東京音楽学校を卒業、富山県女子師範学校教諭となり、その後 1966 (昭和 41) 年に富山大学教授、1977 (昭和 52) 年に富山大学を退官し、1994 (平成 6) 年に 83 歳で亡くなっている。黒坂の作曲による富山県内の小学校校歌は非常に多く、一概に地元出身であるからという理由にはならないが、それでも統合以前の 8 校中 4 校 (五箇庄小、宮崎小、境小、笹川小) が黒坂富治の作曲である。また、他の 2 校 (泊小、大家庄小) は同じく下新川郡朝日町出身で和歌山大学・大阪音楽大学教授を歴任した加藤鹿太郎の作曲である。

下新川郡入善町は、黒坂富治が 1 校 (野中小)、黒坂富治の実兄・川上幸平が 1 校 (横山小) である。加藤鹿太郎による校歌は 1 校 (舟見小) である。他には、下新川郡入善町新屋出身で、戦後教育出版社や教育芸術社を経て金沢大学教授を務めた橋本秀次が 1 校 (新屋小) で、この校歌では作詞も担当している。また、下新川郡朝日町泊出身で校長を歴任した小澤達三 (『富山県校歌全集』の著者) が 1 校 (小摺戸小)、小澤達三の弟で富山大学教授を務めた小澤慎一郎作

曲が2校（飯野小、上原小）であり、作詞者は両校とも前述の和田徳一である。

市町村合併以前の黒部市は、15校中黒坂富治が1校（中央小）、小澤慎一郎が4校（田家小、大布施教場、三日市教場、荻生小）、橋本秀次が2校（石田小、前沢小）である。また、入善町出身で校長を歴任した田原長五郎が1校（東布施小）、旧下新川郡宇奈月町・現黒部市出身で校長を歴任した松島清太郎が1校（尾山小）、滑川市出身の作曲家・高階哲夫が1校（生地小）である。

旧下新川郡宇奈月町・現黒部市は、5校中黒坂富治が2校（愛本小、宇奈月小）、下新川郡入善町新屋出身で岐阜大学教授を務めた米田天海が1校（下立小）である。

魚津市では、16校中黒坂富治が2校（加積小、西布施小）、小澤達三が2校（坪野小、吉島小）、橋本秀次が1校（村木小）である。他には、魚津市出身で小学校長歴任者だった柗崎宗雄が1校（住吉小）、魚津市出身で小中学校の教員だった高木晋朔が1校（松倉小）、下新川郡入善町出身で小学校教員だった浜田政二が1校（白倉小）、黒部市出身で小学校教員だった内山正之が1校（道下小）、魚津市出身で黒部市・田糰小学校長を務めた吉田一雄が1校（上野方小、教諭として在職中に作曲）となっている。

滑川市は、12校中黒坂富治が3校（東部小、早月加積小、中加積小）、小澤慎一郎が2校（東加積小、山加積小）、中新川郡上市町出身で武蔵野音楽大学の創設者・福井直秋が1校（浜加積小）となり、半数の6校を占めている。残る半数は、高田三郎（寺家小）、高木東六（田中小）、團伊玖磨（北加積小）、富山市出身の岩河三郎（白萩西部小）、平井康三郎（西部小、西加積小）など、中央の楽壇で活躍した作曲家によるものである。

中新川郡上市町では、15校中黒坂富治が4校（相ノ木小、音杉小、南加積小、大岩小）、小澤達三が4校（柿沢小、白萩東部小、白萩西部小、白萩南部小）、同町出身で武蔵野音楽大学の設立者・福井直秋が3校（上市中央小、宮川小、旧宮川小）である。

中新川郡立山町は、19校中黒坂富治が2校（新川東部小、東峯小）、小澤慎一郎が1校（新川西部小）、福井直秋が5校（五百石小、下段小、高野小、旧立山芦嶽小、谷口小）、同町出身で利田小・大森小の教頭、高野小学校長を務めた藤井幸治郎が1校（利田小、同校在職中に作曲）、同町五百石出身で三重大学・名古屋大学・名古屋学芸大学教授を務めた佐伯正一が1校（新瀬戸小）、同町出身で富山観光協会理事を務めた金山方象（金山茂人、東京交響楽団最高顧問の父）が1校（立山小）である。

中新川郡舟橋村では、隣町出身の佐伯正一が舟橋小の校歌を作曲している。

市町村合併以前の高岡市では、高岡市出身の作曲家、室崎琴月によるものが9校（東五位小、石堤小、博労小、西条小、小勢小、川原小、平米小、南条小、佐野小）を数える。他の高岡市出身者では、宮下舜爾が2校（西広谷小、万葉小）を作曲している。高岡市出身者以外の県内出身者を見ると、下新川郡朝日町泊出身の黒坂富治が2校（立野小、木津小）、下新川郡朝日町出身の小澤慎一郎が2校（二上小、二塚小）、旧東砺波郡庄川町・現砺波市出身の大澤欽治が2校（千鳥丘小、戸出東部小）、中新川郡上市町出身の福井直秋が3校（伏木小、古府小、戸出小）となっている。また、中央楽壇で活躍した作曲家には、佐々木すぐる（国吉小）、田村虎三（横田小）、信時潔（成美小）、長谷川良夫（牧野小）、岡野貞一（戸出尋常高等小）、松本民之助（北般若小）がいる。

氷見市では、氷見市出身の作曲者は県内高等学校教諭を歴任した三木乗俊（加納小、余川小）、氷見市出身で小学校長を歴任した二本幸作が（宮田小、藪田小）、氷見市出身で中学校教諭を務めた池永哲郎（海峰小）、氷見市出身で小学校長を歴任した越田毅（宇波小、校長として在職中に作詞作曲）がいる。また、氷見市内の小学校に勤務していた伊藤弘（窪小）、中川暁子（仏生寺小）がいる。県内出身者は、下新川郡朝日町出身の黒坂富治（上余川小、一芻小、湖南小、岩瀬小、女良小）、旧東砺波郡城端町・現南砺市出身の荒木得三（東小、小久米小）、富山市出身の池田祐孝（明和小）、旧東砺波郡城端町・現南砺市出身で富山市内の中学校長を歴任した佐藤進（久目小）などがある。

旧東砺波郡庄川町・現砺波市では、同町出身の大澤欽治が 5 校中 3 校（庄川小、雄神小、青島小）を作曲している。

旧東砺波郡・現南砺市の平村、上平村、利賀村では、近隣の市町村出身者として、旧東砺波郡城端町・現南砺市出身の佐藤進（平村・平小）、旧東砺波郡庄川町・現砺波市出身の大澤欽治（平村・下梨小）、旧東砺波郡井口村・現南砺市出身で旧東砺波郡の小中学校教諭を歴任し、最後は利賀小の校長を務めた藤井静渕（平村・東中江小）、旧東砺波郡城端町・現南砺市出身の荒木得三（上平村・皆葎小、上平村・西赤尾小）、庄川町等の小中学校教員だった松井良平（坂上小）らがいる。

旧東砺波郡井波町・現南砺市、同井口村では、砺波市出身で和歌山大学教授を務めた森川隆之（井波町・井波小）、旧東砺波郡庄川町・現砺波市出身の大澤欽治（井波町・高瀬小）がいる。

旧東砺波郡福野町・現南砺市では、同町出身で中学校教員を務めた杉原茂（福野西部小）、旧東砺波郡城端町・現南砺市出身の荒木得三（旧野尻小）がいる。

旧西砺波郡福光町・現南砺市では、同町出身で中学校教員だった大島正尚（福光中部小、福光東部小）のほか、近隣の市町村の出身者では旧東砺波郡般若村・現高岡市出身で富山女子師範学校教諭だった古瀬紋吉（福光小、広瀬小、石黒小、吉江小）、砺波市出身で和歌山大学教授を務めた森川隆之（山田小、北山田小）がいる。

その他の地域は、地元出身者との関連性が低いと考えることができる。

市町村合併以前の富山市を見ると、作曲者は多岐に渡っている。延べ 55 校中、下新川郡朝日町出身の小澤慎一郎が 11 校と多く、内訳は富山市北部地域の 5 校（豊田小、八幡小、草島小、倉垣小、広田小）と南部地域の 1 校（月岡小）、西部地域の 2 校（長岡小、寒江小）、中心地域の 3 校（愛宕小、西田地方小、柳町小）となっている。下新川郡朝日町泊出身の黒坂富治は 9 校で、内訳は富山市北東地域の 6 校（針原小、萩浦小、新庄小、三郷小、上条小）と南部地域の 1 校（太田小）、西部地域の 1 校（池多小）となっている。また、黒坂富治の実兄・川上幸平が 1 校（蜷川小）を作曲している。下新川郡朝日町出身の小澤達三は 2 校（旧八幡小、水橋東部小）、中新川郡上市町出身の福井直秋が 1 校（水橋西部小）となっている。

この地域は、中央楽壇で活躍した作曲家によるものも多く、松本民之助が 1 校（堀川小）、高岡市出身の室崎琴月が 1 校（新保小）、團伊玖磨が 3 校（五福小、奥田小、富山大附属小）、大中恩が 2 校（神明小、奥田北小）、富山市出身の岩河三郎が 2 校（中央小、光陽小）、信時潔が 2 校（呉羽小、八人町小）、平井康三郎が 1 校（老田小）、山田耕筰が 1 校（芝園小、芝園中と同曲）、古関 裕而が 1 校（五番町小）となっている。

旧上新川郡大山町・現富山市は、6校中下新川郡朝日町出身の黒坂富治が2校（文殊寺小、福沢小）、中新川郡上市町出身の福井直秋が1校（上滝小）、下新川郡朝日町出身の小澤慎一郎が1校（牧小）、高岡市出身の室崎琴月が1校（大庄小）で、地元出身者との関連性は見出せない。

旧上新川郡大沢野町・現富山市では、4校中同町出身で校長を歴任した佐藤秀信が1校（大久保小）を作曲しているほかは、地元以外の出身者である。旧婦負郡細入村・現富山市では、4校中旧国鉄時代に高山本線の車掌を務めていたシンガー・ソング・ライター、伊藤敏博による1校（神通碧小）のほかは、中央楽壇で活躍した小松耕輔（猪谷小）と草川信（旧楡原小）、下新川郡朝日町出身の黒坂富治となっている。

旧婦負郡婦中町・現富山市は、地元出身者との関連性は低いと考えることができる。旧婦負郡宮川村・現富山市出身で小学校長を歴任した清水徳義が1校（宮川小）を作曲しているほかは、下新川郡朝日町出身の黒坂富治が3校（鶴坂小、朝日小、宮野小）、下新川郡朝日町出身の小澤慎一郎が1校（神保小）、中央楽壇で活躍した作曲家では古関 裕而が1校（速星小）、高岡市出身の室崎琴月が1校（古里小）となっている。

旧婦負郡山田村・現富山市は、黒坂富治が1校（山田小）、旧東砺波郡城端町・現南砺市出身で県内の音楽界に多大な貢献を果たした荒木得三が1校（音川小）、山田尋常小の当時の校長・木村彦蔵が同校校歌を2度にわたり作詞作曲している。

旧婦負郡八尾町・現富山市は、延べ14校中下新川郡朝日町出身の黒坂富治の5校（桐谷小、下笹原小、仁歩小、野積小、杉原小）を筆頭に、旧婦負郡宮川村・現富山市出身で小学校長を歴任した清水徳義が1校（八尾小）、旧東砺波郡城端町・現南砺市出身の荒木得三が1校（広畑小）、下新川郡入善町出身で中学校長を歴任した田原長五郎が1校（檜尾小）、下新川郡朝日町泊出身の小澤慎一郎が1校（茗ヶ原小）、旧東砺波郡庄川町・現砺波市出身の大澤欽治が1校（室牧小）で、地域との関連性は低いと考えられる。ただし、作曲者不詳の小学校が3校ある。

11校ある旧新湊市・現射水市は、地域との関連性が低い地域と考えられる。この地域は、下総皖一（放生津小）、信時潔（新湊小）、室崎琴月（中伏木小、片口小）、岡野貞一（海老江小）と中央で活躍した作曲家によるものが11校中5校を数える。

旧射水郡小杉町・現射水市は、延べ10校中下新川郡朝日町出身の黒坂富治によるものが多く、5校（金山小、黒河小、太閤山小、橋下条小、中太閤山小）を数えるが、ほかの作曲者に地域との関連性は見出せない。

旧射水郡大門町・現射水市は、地域との関連性は低いが、池辺晋一郎（統合大門小）、團伊玖磨（大門小）、松本民之助（二口小）、古関 裕而（旧大門小）と、中央楽壇の作曲家によるものが目につく。

旧射水郡大島町・現射水市、同下村・現射水市は、地域との関連性は見られない。

小矢部市は、小矢部市出身の上埜孝が石動小の校歌を作曲しているほかは、地域との関連性が低いと考えられる。県内出身者には、下新川郡入善町出身で金沢大学教授を務めた橋本秀次（旧石動小）、下新川郡朝日町出身の小澤慎一郎（大谷小）、旧東砺波郡城端町・現南砺市出身の荒木得三（正得小）、高岡市出身の作曲家・室崎琴月（松沢小）、高岡市出身の宮下舜爾（東部小、水島小）、下新川郡朝日町泊出身の黒坂富治（藪波小、北蟹谷小）らがいる。

砺波市は、地域との関連性は見られない。県内出身者では、旧東砺波郡城端町・現南砺市出身

の荒木得三（中野小）、高岡市出身の宮下舜爾（砺波北部小）、旧東砺波郡庄川町・現砺波市出身の大澤欽治（鷹栖小）、下新川郡朝日町泊出身の黒坂富治（東野尻小、般若小、東般若小）がいる。また、東京都出身で富山大学教授を務めた渡辺一郎が 3 校（庄南小、砺波南部小、庄東小）を作曲している。中央楽壇で活躍した作曲家には、岡野貞一（出町小）、井上武士（梅檀野小）がいる。

旧東砺波郡城端町・現南砺市では、同町出身の荒木得三による 1 校（北野小）を除き地域出身者との関連性は見出せない。

(2) 時代別に見た場合

① 師範学校教員

明治・大正・昭和初頭では、旧師範学校の教員による作曲が多く見られる。

旧東砺波郡北般若村（現高岡市）出身で富山女子師範学校教員だった古瀬紋吉は、富山市・四方小、富山市・旧八人町小、高岡市・北般若尋常小、旧西砺波郡福光町・現南砺市・福光小、同吉江小、下新川郡入善町・入善小の校歌を 1907（明治 40）年～1910（明治 43）年に、旧西砺波郡福光町・現南砺市・広瀬小を 1915（大正 4）年に作曲している。また、富山市出身で熊本・前橋・長野の師範学校教諭だった野口米次郎が 1909（明治 42）年に富山市・山室小の校歌を作曲（作詞者の田部重治と親交があった）している。

明治時代から昭和時代を通して校歌を作曲している人物に、旧東砺波郡城端町・現南砺市出身で富山師範学校教諭を務め、県内の音楽界に多大な貢献をした荒木得三（別項で述べる）がいる。

大正時代には、東京都出身で石川県師範学校教員だった大西安正により旧西砺波郡福光町・現南砺市・西太美小の校歌が、広島高等師範学校教員だった長橋熊次郎により旧東砺波郡福野町・現南砺市・福野南部小の校歌が作曲されている。また、中新川郡立山町出身で小学校教頭を歴任し、高野小校長となった藤川幸次郎が中新川郡立山町・利田小の校歌を作曲（同校に在職中に作曲）している。

昭和初期においても、奈良女子高等師範学校訓導兼助教授だった幾尾純が富山市・熊野小の校歌を、富山師範学校教員だった杉江秀が下新川郡朝日町・山崎小の校歌を作曲している。

② 校長経験者・教員

また、作詞者の場合と同様に、校長や教員による作曲も多い。

大正時代では、富山市出身で小学校長を歴任した島田乙之丞（旧射水郡大門町・現射水市・櫛田小、櫛田小在職時の 38 歳頃に作曲）が挙げられる。

昭和時代に入ると、戦前では下新川郡朝日町泊出身で小学校長を歴任した小澤達三（別項で述べる）、旧下新川郡宇奈月町・現黒部市出身で高志野中学校長を務めた松島清太郎（黒部市・尾山小）、旧婦負郡宮川村・現富山市出身で小学校長を歴任し、戦後宮川村長も務めた清水徳義（旧婦負郡宮川村・現富山市・宮川小、同八尾町・現富山市・八尾小）、黒部市出身で小学校長を歴任した本瀬広吉（黒部市・若栗小、同校に在職中に作曲）、氷見市出身で小学校長を歴任した二本幸作（氷見市・宮田小、35 歳頃に作曲、後に宮田小の校長も務めた）が挙げられる。戦後では、小中学校長を歴任した広田宙外（富山市・東部小、校長として在職中に作曲）、小中学校長を歴任した瀧田清（下新川郡入善町・青木小）、下新川郡朝日町泊出身で小中学校長を歴任した牧田吉隆（旧婦負郡婦中町・現富山市・旧熊野小）、氷見市出身で小学校長を歴任した越田

毅（氷見市・宇波小、同校在職中に作曲）、旧上新川郡大沢野町・現富山市出身で小学校長を歴任した佐藤秀信（旧上新川郡大沢野町・現富山市・大久保小）、下新川郡入善町出身で入善西中学校長を務めた田原長五郎（富山市・檜尾小、黒部市・東布施小）、魚津市出身で黒部市・田舛小の校長を務めた吉田一雄（滑川市・上野方小、同校に在職中に作曲）、魚津市出身で小学校長を歴任した柘崎宗雄（魚津市・天神小）、氷見市出身で小学校長を歴任した二本幸作（氷見市・藪田小）、旧東砺波郡井口村・現南砺市出身で旧東砺波郡利賀村・現南砺市・利賀小校長を務めた藤井静洸（旧東砺波郡平村・現南砺市・東中江小、同校在職中に作曲）、旧東砺波郡城端町・現南砺市出晋で小学校長を歴任した山崎正俊（黒部市・嘉例沢分校）、旧東砺波郡城端町・現南砺市出身で中学校長を歴任した佐藤進（富山市・堀川南小、下新川郡入善町・上青小、富山市・桜谷小、下新川郡入善町・ひばり野小、旧東砺波郡平村・平小、氷見市・久目小、下新川郡朝日町・あさひ野小）が挙げられる。教員では、下新川郡入善町出身で小学校教諭だった浜田政二（魚津市・白倉小、同校在職中に作曲）、氷見市出身で高等学校教諭だった三木乗俊（氷見市・加納小、同余川小）、中学校教諭だった末岡千鶴子（旧上新川郡大山町・現富山市・小見小）、元高等学校教諭で県内の合唱界に貢献した宮下舜爾（小矢部市・水島小、小矢部市・東部小、高岡市・西広谷小、砺波市・砺波北部小、高岡市・万葉小）、中新川郡立山町出身で小学校教諭だった村上与四郎（富山市・藤ノ木小）、小学校助教諭だった盛田満（高岡市・湊ヶ谷小、同校在職時に作曲）、黒部市出身で小学校教諭だった内山正之（魚津市・道下小、同校在職時に作曲）、魚津市出身で小中学校教諭だった奥村修三（魚津市・本江小）、旧東砺波郡井波町・現南砺市出身で小中学校教諭だった杉原芳枝（旧東砺波郡城端町・現南砺市・南山田小）、小学校教諭だった伊藤弘（氷見市・窪小）、小学校教諭だった武部由美子（砺波市・太田小）、氷見市出身で中学校教諭だった池永哲郎（氷見市・八代小）、旧東砺波郡庄川町・現南砺市出身で小中学校教諭だった松井良平（旧東砺波郡利賀村・現南砺市・坂上小）、小学校教諭だった中川暁子（氷見市・仏生寺小、同校在職時に作曲）、砺波市出身で小学校教諭だった中島礼子（砺波市・五鹿屋小、同校在職時に作曲）、旧西砺波郡福岡町・現高岡市出身で小学校教諭だった矢後恭子（小矢部市・北蟹谷小内山分校、同校在職時に作詞作曲）、旧西砺波郡福光町・現南砺市出身で中学校教諭だった大島正尚（旧西砺波郡福光町・現南砺市・福光中部小、同福光東部小）が挙げられる。

また、制定年不詳では、旧婦負郡八幡村・現富山市出身で県立高等女学校教諭だった佐々木尚矩（旧新湊市・現射水市・七美小）、北海道出身で教諭だった沼崎花（小矢部市・若林小）、氷見市出身で中学校教諭を務めた池永哲郎（海峰小）がいる。

これらの作曲者は、校長・教諭を含めてその地域の出身者が多い。また、その学校の在職時に作曲した例もあることがわかる。

(3) 主な作曲者たち

① 荒木得三

荒木得三は、1891（明治 24）年に旧東砺波郡城端町・現南砺市に生まれ、高岡高等女学校教諭を経て富山師範学校教諭を務めた。川上哲二・川上幸平・黒坂（川上）富治の三兄弟、小澤達三・小澤慎一郎・牧田（小澤）吉隆の三兄弟、森川（大澤）彦治・大澤欽治の兄弟など、県下の音楽教諭の育成に尽力するとともに、富山混声合唱団の設立、著名演奏家の招聘など、広く富山県の音楽文化の向上に努めた人物である。富山観光協会常任理事で、『交響詩「立山」』（黛敏

郎)の作曲に貢献した金山方象(中新川郡立山小学校の校歌を作詞)とは富山中学時代の同期である。1952(昭和27)年に死去している。

荒木が作曲した富山県内の小学校校歌を制定年順に学校名で並べると次のようになる。

- 1909(明治42)年 18歳 砺波市・中野小(作詞・作曲)
- 1923(大正12)年 32歳 (富山市・富山師範学校)
- 1934(昭和9)年 43歳 氷見市・東小
- 1935(昭和10)年 44歳 旧上新川郡大沢野町・現富山市・船嶽小、旧婦負郡婦中町・現富山市・音川小、高岡市・太田小
- 1936(昭和11)年 45歳 旧下新川郡宇奈月町・現黒部市・浦山小
- 1937(昭和12)年 46歳 旧東砺波郡福野町・現南砺市・旧野尻小
- 1938(昭和13)年 47歳 魚津市・大町小
- 1940(昭和15)年 49歳 中新川郡立山町・大森小
[太平洋戦争開戦]
- 1942(昭和17)年 51歳 旧婦負郡八尾町・現富山市・広畑小
- 1945(昭和20)年 54歳 [太平洋戦争終戦]
- 1947(昭和22)年 56歳 旧東砺波郡上平村・現南砺市・皆葎小、同西赤尾小
- 1948(昭和23)年 57歳 (富山市・北部中)
- 1949(昭和24)年 58歳 (富山市・富山北部高)
- 1950(昭和25)年 59歳 旧東砺波郡城端町・現南砺市・北野小、富山市・大広田小
- 1951(昭和26)年 60歳 (旧下新川郡宇奈月町・現黒部市・宇奈月中、旧婦負郡婦中町・城山中、富山市・不二越工業高)
- 不詳 中新川郡上市町・上市尋常高等小、旧射水郡大門町・現射水市・水戸田小、氷見市・小久米小、小矢部市・正得小、氷見市・熊無村外二ヶ村学校組合立高等小学校、富山市・旧愛宕小、(旧東砺波郡利賀村・現南砺市・利賀中、旧婦負郡八尾町・現富山市・大長谷中)

荒木得三の小学校校歌作曲は、記録を信頼するならば18歳時に始まり、後は40代と50代に集中している。地域の偏りは見られない。

②室崎琴月

室崎琴月(本名:清太郎)は、1891(明治24)年2月20日に高岡市木舟町の商家に生まれた。1910(明治43)年に高岡中学校を卒業し、1913(大正2)年の東京音楽学校予科入学を経て、1917(大正6)年本科器楽部を卒業して研究科に進んだ。1919(大正8)年に東京音楽学校研究科を修了後、1921(大正10)年に『夕日』を発表し注目された。その後多数の童謡雑誌で作曲を行い、『コドモノクニ』では中山晋平の後任として野口雨情、北原白秋、西條八十らの詩に曲をつけた。1928(昭和3)年、中央音楽学校を設立したが、1945(昭和20)年東京大空襲で校舎や家屋を失い、高岡市に戻って中央音楽学校分教場を開設するとともに、高岡中学校の教員も務めた。1977(昭和52)年に86歳で死去している。

室崎が作曲した富山県内の小学校校歌を制定年順に学校名で並べると次のようになる。

- 1921 (大正 10) 年 30 歳 高岡市・川原小 (母校)
〔『夕日』発表〕
- 1928 (昭和 3) 年 37 歳 〔中央音楽学校設立〕
- 1929 (昭和 4) 年 38 歳 高岡市・平米小 (隣接する校下)
- 1945 (昭和 20) 年 54 歳 〔高岡市に戻る〕
〔高岡中学教諭 (～昭和 23 年)、高岡市・南部中学 (現南星中) 教諭 (昭和 23 年)]
〔高岡市・県立高岡西部高に勤務 (～昭和 27 年)]
- 1949 (昭和 24) 年 58 歳 旧西砺波郡山王村・現高岡市・山王小、(高岡市・高岡西部中、砺波市・出町中)
- 1950 (昭和 25) 年 59 歳 高岡市・佐野小、(高岡市・国吉中、同中田中、旧東砺波郡庄川町・現砺波市・庄川中)
- 1951 (昭和 26) 年 60 歳 高岡市・西条小、(旧婦負郡婦中町・現富山市・速星中、高岡市・高陵中)
- 1952 (昭和 27) 年 61 歳 旧新湊市・現射水市・片口小、(氷見市・十三中)
- 1953 (昭和 28) 年 62 歳 旧婦負郡婦中町・現富山市・古里小、旧新湊市・現射水市・中伏木小
〔高岡市桜川・現本丸町に中央音楽学校独立分校校舎完成〕
- 1954 (昭和 29) 年 63 歳 高岡市・小勢小
- 1955 (昭和 30) 年 64 歳 旧上新川郡大山町・現富山市・大庄小、高岡市・東五位小、高岡市・博労小
- 1959 (昭和 34) 年 68 歳 黒部市・三日市小、(高岡市・南星中)
- 1961 (昭和 36) 年 70 歳 富山市・新保小、高岡市・石堤小
- 1962 (昭和 37) 年 71 歳 旧東砺波郡利賀村・現南砺市・旧利賀小、(高岡市・高岡東高→高岡日大高→高岡向陵高)
- 1968 (昭和 43) 年 77 歳 〔高岡を離れ、中央音楽学校再建〕
- 1970 (昭和 45) 年 79 歳 高岡市・南条小
不詳 小矢部市・松沢小、(旧高岡西部高、こまどり養護)

これを見ると、1921 (大正 10) 年に『夕日』を発表した同年に、母校である高岡市・川原小の校歌が制定されている。その背景には、中央の新進作曲家として有名になった室崎琴月を後押ししようとする故郷の人たちの温かい心情があったことが読み取れる。それは、川原小に隣接する高岡市・平米小 (川原小と平米小は室崎の生家からほぼ等距離の位置にある) の校歌がその 8 年後に制定されていることからもいえるかもしれない。

次に室崎が富山県内の校歌を作曲するのは東京大空襲で東京の家屋や創設した中央音楽学校の校舎を失い、故郷の高岡市に戻ってからである。58 歳だった 1949 (昭和 24) 年から 64 歳になった 1955 (昭和 30) 年までほぼ毎年のように作曲しているが、黒部市・三日市小を除き、高岡市を中心とした富山県西部の小学校が多い。なかでも 1959 (昭和 34) 年に 68 歳で校歌を作曲した高岡市・南星中はかつての勤務校であった。

③福井直秋

福井直秋は、1877（明治 10）年 10 月 17 日に、富山県中新川郡上市町の浄誓寺の五男として生まれた。1899（明治 32）年東京音楽学校に進学、授業補助をしていた瀧廉太郎（4 年後に死去）と出会う。1902（明治 35）年に 25 歳で富山師範学校教員となり、1904（明治 37）に長野師範学校に転勤。1908（明治 41）年、31 歳でわが国最初の和声学専門書『初等和声学』を執筆した。1929（昭和 4）年、52 歳で武蔵野音楽大学の前身である武蔵野音楽学校を設立、1949（昭和 24）年、72 歳で武蔵野音楽大学初代学長となった。1958（昭和 33）年、その功績を讃えて富山県青少年音楽コンクールに福井音楽賞が創設された。1963（昭和 38）年 12 月 12 日、86 歳で死去している。

福井が作曲した富山県内の小学校校歌を制定年順に学校名で並べると次のようになる。

- | | | |
|--------------|------|---|
| 1921（大正 10）年 | 44 歳 | （旧制魚津中） |
| 1923（大正 12）年 | 46 歳 | （小杉農業公民学校） |
| 1929（昭和 4）年 | 52 歳 | （旧制氷見中） |
| | | 〔武蔵野音楽学校設立〕 |
| 1931（昭和 6）年 | 54 歳 | 中新川郡立山町・五百石小 |
| 1932（昭和 7）年 | 55 歳 | 下新川郡入善町・櫛山小 |
| 1937（昭和 12）年 | 60 歳 | （滑川高女） |
| 1940（昭和 15）年 | 63 歳 | 高岡市・古府小 |
| 1948（昭和 23）年 | 71 歳 | 中新川郡立山町・谷口小、（中新川郡立山町・上東中） |
| 1949（昭和 24）年 | 72 歳 | 滑川市・浜加積小、（滑川市・滑川中、同早月中、富山市・水橋中、砺波市・庄西中） |
| | | 〔武蔵野音楽大学初代学長〕 |
| 1950（昭和 25）年 | 73 歳 | 富山市・総曲輪小、中新川郡立山町・下段小、（富山市・和合中、富山市・呉羽中、旧婦負郡八尾町・現富山市・八尾中） |
| 1951（昭和 26）年 | 74 歳 | （魚津市・西部中、旧婦負郡山田村・現富山市・山田中） |
| 1952（昭和 27）年 | 75 歳 | 中新川郡立山町・高野小、（富山市・富山工業高） |
| 1953（昭和 28）年 | 76 歳 | 旧上新川郡大山町・現富山市・上滝小、旧射水郡下村・現射水市・下村小 |
| 1955（昭和 30）年 | 78 歳 | （富山市・月岡中） |
| 1957（昭和 32）年 | 80 歳 | 中新川郡立山町・立山芦嶺小 |
| 1958（昭和 33）年 | 81 歳 | 〔「福井音楽賞」創設〕 |
| 1959（昭和 34）年 | 82 歳 | 高岡市・戸出小 |
| 1960（昭和 35）年 | 83 歳 | 中新川郡上市町・宮川小、同上市中央小 |
| | 不詳 | 上新川郡入善町・旧飯野小（大正時代）、中新川郡上市町・旧宮川小、富山市・水橋西部小、高岡市・伏木小、（旧上新川郡大山町・現富山市・上滝中、旧婦負郡細入村・現富山市・楡原中、魚津市・魚津高女） |

これを見ると、1929（昭和 4）年に 52 歳で武蔵野音楽大学の前身である武蔵野音楽学校を設

立した直後の 1931（昭和 6）年に生まれ故郷の上市町に近い中新川郡立山町・五百石小の校歌を作曲している。そして、武蔵野音楽大学初代学長となった 1949（昭和 24）年から作曲数が増えている。しかし、福井が作曲したのは、富山市および富山市より南部地域、東部地域の学校が多く、富山県西部では 5 校（高岡市・古府小、旧射水郡下村・現射水市・下村小、高岡市・戸出小、高岡市・伏木小、砺波市・庄西中）に留まっている。

④小澤達三

小澤達三は、1907（明治 40）年に下新川郡朝日町に生まれた。富山師範学校を卒業し、旧下新川郡道下村・現魚津市・道下小、黒部市・生地小、魚津市・大町小の校長を歴任した。小澤慎一郎の実兄でもある。

小澤が作曲した富山県内の小学校校歌を制定年順に学校名で並べると次のようになる。

- 1928（昭和 3）年 21 歳 下新川郡入善町・小摺戸小
- 1935（昭和 10）年 28 歳 富山市・旧八幡小
- 1947（昭和 22）年 40 歳 （魚津市・東部中）
- 1951（昭和 26）年 44 歳 中新川郡上市町・白萩東部小、富山市・水橋東部小
- 1953（昭和 28）年 46 歳 中新川郡上市町・白萩西部小、（中新川郡上市町・不動中）
- 1954（昭和 29）年 47 歳 中新川郡上市町・白萩南部小、中新川郡上市町・柿沢小
- 1972（昭和 47）年 65 歳 （魚津市・魚津総合高等職業訓練校）
- 1975（昭和 50）年 68 歳 魚津市・吉島小
- 1977（昭和 52）年 70 歳 魚津市・坪野小
- 1979（昭和 54）年 72 歳 『富山県校歌全集』発刊

小澤が校歌を作曲した学校は、ほとんどが富山県東部地域の学校である。特に、中新川郡上市町が多く、白萩東部・西部・南部小のすべての校歌を作曲している。うち白萩西部小、白萩南部小、柿沢小は、中新川郡旧東加積村・現滑川市出身で、東加積村長、富山県教育委員長を務め、童謡集や民謡集を出版していた山本宗間の作詞である。

⑤黒坂富治

黒坂富治は、1911（明治 44）年 8 月 1 日に下新川郡朝日町平柳 60 番地に生まれ、1931（昭和 6）年に 20 歳で富山県師範学校を卒業後、1936（昭和 11）年に東京音楽学校を卒業し、富山県女子師範学校教諭となった。1943（昭和 18）年に富山師範学校助教授、終戦後の 1949（昭和 24）年に富山大学教育・文理学部助教授、1966（昭和 41）年に富山大学教授となった。1969（昭和 44）年から 2 年間富山大学教育学部附属中学校長を務め、富山大学を 1977（昭和 52）年に退官し、新潟青陵短期大学教授となった。1994（平成 6）年、83 歳で死去している。

黒坂が作曲した富山県内の小学校校歌を制定年順に学校名で並べると次のようになる。

- 1936（昭和 11）年 25 歳 [東京音楽学校卒業、富山県女子師範学校教諭]
- 1937（昭和 12）年 26 歳 下新川郡朝日町・宮崎小
- 1938（昭和 13）年 27 歳 旧婦負郡山田村・現富山市・山田小
- 1940（昭和 15）年 29 歳 下新川郡朝日町・五箇庄小、旧婦負郡八尾町・現富山市・杉原小
- 1941（昭和 16）年 30 歳 滑川市・中加積小、氷見市・上庄小
- 1943（昭和 18）年 32 歳 [富山師範学校助教授]

- 1947 (昭和 22) 年 36 歳 下新川郡朝日町・境小、(中新川郡上市町・白萩中)
- 1948 (昭和 23) 年 37 歳 下新川郡朝日町・笹川小、(富山市・水産高)
- 1949 (昭和 24) 年 38 歳 (富山市・大久保中、下新川郡朝日町・泊高)
〔富山大学教育・文理学部助教授〕
- 1950 (昭和 25) 年 39 歳 (黒部市・桜井中部中、旧東砺波郡井口村・現南砺波市・井口中、
中新川郡上市町・上市高)
- 1951 (昭和 26) 年 40 歳 旧下新川郡宇奈月町・現黒部市・愛本小、中新川郡上市町・相ノ
木小、旧婦負郡婦中町・鶴坂小、(旧東砺波郡上平村・現南砺
市・上平中、小矢部市・蟹谷中、旧東砺波郡福野町・現南砺市・
福野中、小矢部市・津沢中)
- 1952 (昭和 27) 年 41 歳 中新川郡上市町・大岩小、同南加積小、氷見市・一芻小、富山
市・新庄小、砺波市・般若小、富山市・池多小、(旧射水郡小杉
町・現射水市・小杉中、氷見市・南部中)
- 1953 (昭和 28) 年 42 歳 中新川郡立山町・新川東部小、黒部市・西布施小、旧上新川郡大
山町・現富山市・文殊寺小、富山市・福沢小、旧婦負郡細入村・
現富山市・楡原小、旧婦負郡婦中町・現富山市・桐谷小、砺波
市・東野尻小
- 1954 (昭和 29) 年 43 歳 旧射水郡小杉町・現射水市・橋下条小、富山市・萩浦小、砺波
市・種田小、旧婦負郡婦中町・現富山市・朝日小、旧婦負郡八尾
町・現富山市・保内小
- 1955 (昭和 30) 年 44 歳 富山市・太田小
- 1956 (昭和 31) 年 45 歳 下新川郡入善町・野中小、高岡市・立野小、(旧上新川郡細入
村・猪谷中)
- 1957 (昭和 32) 年 46 歳 旧東砺波郡城端町・現南砺市・大鋸屋小、旧射水郡小杉町・現射
水市・金山小、(西砺波郡福光町・現南砺市・太美中)
- 1958 (昭和 33) 年 47 歳 旧西砺波郡福岡町・現高岡市・赤丸小、砺波市・東般若小
- 1960 (昭和 35) 年 49 歳 小矢部市・北蟹谷小
- 1961 (昭和 36) 年 50 歳 旧射水郡小杉町・現射水市・黒河小
- 1962 (昭和 37) 年 51 歳 旧婦負郡八尾町・現富山市・野積小、旧婦負郡婦中町・現富山
市・宮野小
- 1963 (昭和 38) 年 52 歳 旧婦負郡八尾町・現富山市・下笹原小、氷見市・岩瀬小、中新川
郡立山町・東峯小
- 1964 (昭和 39) 年 53 歳 富山市・三郷小
- 1966 (昭和 41) 年 55 歳 富山市・上条小、(富山市・中央農業高)
〔富山大学教育学部教授〕
- 1967 (昭和 42) 年 56 歳 小矢部市・藪波小、同上余川小、(氷見市・阿尾中)
- 1968 (昭和 43) 年 57 歳 旧西砺波郡福岡町・現高岡市・福岡小、(富山市・富山養護)
- 1969 (昭和 44) 年 58 歳 氷見市・女良小、滑川市・東部小、旧東砺波郡福野町・現南砺

市・福野小

〔富山大学教育学部附属中学校長（～昭和 45 年）〕

- 1972（昭和 47）年 61 歳 旧下新川郡宇奈月町・現黒部市・宇奈月小
 1973（昭和 48）年 62 歳 旧射水郡小杉町・現射水市・太閤山小、氷見市・湖南小
 1974（昭和 49）年 63 歳 氷見市・十二町小
 1975（昭和 50）年 64 歳 旧婦負郡八尾町・現富山市・仁歩小
 1977（昭和 52）年 66 歳 黒部市・中央小、（富山市・南部中）
 〔富山大学退官、新潟青陵短期大学教授〕
 1978（昭和 53）年 67 歳 旧射水郡小杉町・現射水市・中太閤山小
 1982（昭和 57）年 71 歳 高岡市・木津小
 不詳 魚津市・加積小、滑川市・早月加積小、中新川郡上市町・音杉小、
 富山市・針原小、旧東砺波郡井波町・現南砺市・南山見小、（旧
 婦負郡八尾町・現富山市・仁歩中）

これを見ると、黒坂が東京音楽学校を卒業し、富山県女子師範学校教諭となった 1937（昭和 12）年から作曲が始まっていることがわかる。富山師範学校助教授となる前年の 1941（昭和 16）までに、6 校の校歌が作曲されている。うち 4 校は黒坂の故郷下新川郡朝日町の小学校である。富山師範学校助教授となってしばらくは、富山県東部の小学校が多く見られる。中学校が富山県西部ばかりであるのと対照的で、興味深い現象である。年間の作曲数が多いのは 40 歳から 43 歳までで、年間に 7～8 曲を作曲している。40 歳代後半になると、徐々に富山県西部の小学校が増えていく。1970（昭和 45）年から 2 年間作曲がないのは、富山大学教育学部附属中学校長として多忙だったからであろうか。1977（昭和 52）年に富山大学を退官し名誉教授となつてからは、制定年不詳の小学校を除き、旧射水郡小杉町・現射水市・中太閤山小と高岡市・木津小しか作曲していない。26 歳前後から 70 歳になるまで、実に膨大な数の校歌を作曲している。富山県の教育界に多大な貢献をしたといえるだろう。

⑥小澤慎一郎

小澤慎一郎は、1913（大正 2）年 6 月 16 日、下新川郡朝日町泊に生まれた。1929（昭和 4）年下新川郡朝日町・泊尋常高等小学校を卒業、1934（昭和 9）年に 21 歳で県立富山師範学校を卒業、中新川郡東水橋小学校の訓導となった。1937（昭和 12）年に 24 歳で東京音楽学校に進学し、声楽を木下保に師事。1940（昭和 15）年に 27 歳で卒業し、同年県立富山師範学校教諭、富山青年師範学校講師となった。1943（昭和 18）年に 30 歳で富山師範学校助教授、1949（昭和 24）年に 36 歳で富山大学教育学部助教授、1972（昭和 47）年に 59 歳で富山大学教育学部教授となり、1976（昭和 51）年から 4 年間、富山大学教育学部附属中学校長を務めている。1979（昭和 54）年に退官、富山大学名誉教授となった。1980（昭和 55）年からは洗足学園魚津短期大学教授を務めた。1945（昭和 20）年、32 歳の時に合唱を含めた音楽団体「叢声楽苑」を設立し、1960（昭和 35）年、47 歳の時には現在まで続く「第九交響曲の夕」の開催に尽力するなど富山県内の合唱界に多大な貢献をした。1947（昭和 22）年から富山県合唱連盟理事長を、1980（昭和 55）年からは富山県合唱連盟初代会長を務めた。1985（昭和 58）年 1 月 5 日に 72 歳で死去している。

小澤が作曲した富山県内の小学校校歌を制定年順に学校名で並べると次のようになる。

- 1943 (昭和 18) 年 30 歳 高岡市・二塚小
 1947 (昭和 22) 年 34 歳 滑川市・東加積小
 1948 (昭和 23) 年 35 歳 黒部市・大布施教場、黒部市三日市教場、(下新川郡入善町・黒東中、同飯野中)
 1950 (昭和 25) 年 37 歳 (下新川郡朝日町・泊中、新湊市・射北中)
 1951 (昭和 26) 年 38 歳 高岡市・二上小、(下新川郡入善町・上青中)
 1952 (昭和 27) 年 39 歳 中新川郡立山町・新川西部小、富山市・西田地方小、同愛宕小
 1953 (昭和 28) 年 40 歳 黒部市・荻生小、富山市・柳町小、旧新湊市・現射水市・堀岡小、(下新川郡入善町・舟見中)
 1954 (昭和 29) 年 41 歳 富山市・八幡小、同広田小、旧婦負郡婦中町・現富山市・神保小、旧婦負郡八尾町・現富山市・茗ヶ原小
 1955 (昭和 30) 年 42 歳 富山市・豊田小、同長岡小、(旧西砺波郡福光町・現南砺市・吉江中)
 1957 (昭和 32) 年 44 歳 下新川郡入善町・上原小、(小矢部市・若林中)
 1959 (昭和 34) 年 46 歳 富山市・寒江小、滑川市・山加積小
 1960 (昭和 35) 年 47 歳 富山市・月岡小
 1961 (昭和 36) 年 48 歳 旧西砺波郡福光町・現南砺市・東太美小、富山市・草島小、富山市・倉垣小
 1962 (昭和 37) 年 49 歳 高岡市・西五位小、黒部市・田家小
 1963 (昭和 38) 年 50 歳 富山市・星井町小、下新川郡入善町・飯野小
 1964 (昭和 39) 年 51 歳 (砺波市・砺波工業高)
 1966 (昭和 41) 年 53 歳 旧婦負細入村・現富山市・牧小
 1968 (昭和 43) 年 55 歳 砺波市・砺波東部小
 1969 (昭和 44) 年 56 歳 砺波市・梅檀山小
 1970 (昭和 45) 年 57 歳 (旧新湊市・現射水市・富山商船高専)
 1971 (昭和 46) 年 58 歳 小矢部市・大谷小、旧西砺波郡福光町・現南砺波市・福光南部小、(旧射水郡大門町・現射水市・大門中)
 1974 (昭和 49) 年 61 歳 (富山市・富山工業高専)
 不詳 (氷見市・南小、黒部市・桜井東部中、旧射水郡大門町・現射水市・旧大門中、砺波市・砺波北部中、高岡市・戸出女子高)

小澤が校歌を作曲した小学校を見ると、最初の頃は小澤の出身地である下新川郡朝日町泊周辺の小学校が見られるが、若い頃から晩年まで特に地域の特徴は見られず、広く富山県内の小学校の校歌を作曲していることがわかる。富山大学教育学部の教員として、また富山県合唱連盟の理事長として、広く県内にその活動が知られていた結果といえるかもしれない。ただ、他の作曲者と異なるのは、1972 (昭和 47) 年から亡くなる 1986 (昭和 61) までの 14 年間は、小学校校歌の作曲がないことである。

⑦大澤欽治

大澤欽治は、1921（大正 10）年 2 月 26 日に旧東砺波郡庄川町雄神村・現砺波市に生まれ、1943（昭和 18）年に 22 歳で東京音楽学校師範科を卒業、1951（昭和 26）年に 29 歳で富山大学教育学部の講師となった。1962（昭和 37）年に 41 歳で助教授、1977（昭和 52）年に 56 歳で教授、1978（昭和 53）年に 57 歳で富山大学教育学部附属幼稚園長、1979（昭和 54）年に 58 歳で富山大学教育学部学部長になり、3 期 6 年間務めた。2007（平成 19）年、86 歳で死去している。

大澤が作曲した富山県内の小学校校歌を制定年順に学校名で並べると次のようになる。

- 1950（昭和 25）年 29 歳 砺波市・鷹栖小、富山市・旧桜谷小、（砺波市・般若中）
 1951（昭和 26）年 30 歳 〔富山大学教育学部講師〕
 1954（昭和 29）年 33 歳 旧婦負郡八尾町・現富山市・室牧小
 1955（昭和 30）年 34 歳 砺波市・雄神小
 1956（昭和 31）年 35 歳 旧東砺波郡庄川町・現砺波市・青島小、旧東砺波郡井波町・現南砺市・高瀬小
 1957（昭和 32）年 36 歳 旧東砺波郡平村・現南砺市・下梨小、砺波市・油田小
 1962（昭和 37）年 41 歳 〔富山大学教育学部助教授〕
 1965（昭和 40）年 44 歳 中新川郡立山町・立山北部小
 1968（昭和 43）年 47 歳 高岡市・千鳥丘小、高岡市・戸出東部小、旧東砺波郡庄川町・現南砺市・庄川小
 1977（昭和 52）年 56 歳 富山市・山室中部小
 〔富山大学教育学部教授〕
 1978（昭和 53）年 57 歳 〔富山大学教育学部附属幼稚園長〕
 1979（昭和 54）年 58 歳 〔富山大学教育学部長～1984（昭和 58）年〕
 1983（昭和 58）年 62 歳 旧射水郡小杉町・現射水市・歌の森小
 1984（昭和 59）年 63 歳 （富山市・興南中）
 1986（昭和 61）年 65 歳 〔富山大学退官、富山大学名誉教授〕
 1988（昭和 63）年 67 歳 （富山市・藤ノ木中）

大澤が作曲した校歌は、すべて富山大学教育学部の教員となつてからのものであるが、これを見ると、出身地である旧東砺波郡庄川町・現砺波市およびその周辺の小学校が比較的多いことがわかる。1955（昭和 30）年には、おそらく母校であろう砺波市・雄神小の校歌を作曲している。また、1965（昭和 40）年以降は、すべて学校統合によって生まれた小学校および新設校である。

⑧岩河三郎

岩河三郎は、1923（大正 12）年 9 月 9 日に富山市で生まれ、県立富山商業高等学校を経て東京音楽学校声楽科に進み、1947（昭和 22）年に卒業、作曲家としての道を歩んだ。作品には、『巢立ちの歌』『木琴』『親知らず子知らず』など、小学生や中学生の合唱作品が多い。2013（平成 25）年 9 月 16 日、90 歳で死去している。

岩河が作曲した富山県内の小学校校歌を制定年順に学校名で並べると次のようになる。

- 1960（昭和 35）年 37 歳 （富山市・西部中）
 1965（昭和 40）年 42 歳 （旧新湊市・現射水市・新湊南部中）

- 1973 (昭和 48) 年 50 歳 旧射水郡小杉町・現射水市・小杉小
1975 (昭和 50) 年 52 歳 (旧新湊市・現射水市・奈古中)
1979 (昭和 54) 年 56 歳 (中新川郡舟橋村・舟橋中)
1980 (昭和 55) 年 57 歳 滑川市・南部小
1984 (昭和 59) 年 61 歳 (旧射水郡小杉町・現射水市・小杉南中)
1987 (昭和 62) 年 64 歳 中新川郡上市町・白萩南部小
1996 (平成 8) 年 73 歳 旧東砺波郡利賀村・現南砺市・利賀小
2002 (平成 14) 年 79 歳 富山市・光陽小
2010 (平成 22) 年 87 歳 富山市・新庄北小

岩河作曲による校歌のうち、1980 (昭和 55) 年以降の滑川市・南部小、射水市・小杉南中、南砺市・利賀小、富山市・光陽小、富山市・新庄北小はすべて統合または新設された学校である。

⑨宮下舜爾

宮下舜爾は、1925 (大正 14) 年 3 月 31 日に樺太に生まれた。旧陸軍戸山学校軍楽隊を卒業し、1947 (昭和 22) 年に高岡市立芳野中学校、1950 (昭和 25) 年に県立石動高等学校教諭となり、1952 (昭和 27) 年、北日本放送局の開局と同時に入社、アナウンス部長、編成、制作、業務、報道の各局長を経て 1975 (昭和 50) 年、社長室長にて退社した。その間音楽活動、合唱活動、作曲活動を続けた。

宮下が作曲した富山県内の小学校校歌を制定年順に学校名で並べると次のようになる。

- 1947 (昭和 22) 年 22 歳 (高岡市・芳野中、勤務校)
1949 (昭和 24) 年 24 歳 (旧新湊市・現射水市・新湊高)
1951 (昭和 26) 年 26 歳 小矢部市・宮島小
1954 (昭和 29) 年 29 歳 小矢部市・水島小
1961 (昭和 36) 年 36 歳 小矢部市・東部小
1962 (昭和 37) 年 37 歳 高岡市・西広谷小、(高岡市・志貴野高)
1970 (昭和 45) 年 45 歳 (高岡市・牧野中)
1971 (昭和 46) 年 46 歳 (旧東砺波郡平村・現南砺波市・福野高平分校)
1972 (昭和 47) 年 47 歳 砺波市・砺波北部小
1975 (昭和 50) 年 50 歳 (氷見市・北部中)
1979 (昭和 54) 年 54 歳 高岡市・万葉小
不詳 (高岡市・高岡工芸高学窓歌、富山市医師会看護専門高)

高岡市・芳野中の校歌は開校時に制定されており、宮下は同校に勤務していた。宮下が校歌を作曲した校歌は富山県西部地域に限られており、なかでも居住していた高岡市の学校が多い。

⑩佐藤進

佐藤進は、1934 (昭和 9) 年 1 月 18 日に旧東砺波郡城端町・現南砺市に生まれた。小学 6 年次に父親が勤務していた発電所の関係で現南砺市成出に移り、皆葎小、西赤尾小に在籍した。上平中、福野高を経て富山大学教育学部に進学、卒業後は富山市内の中学校の音楽教諭を長年務め、富山市立山室中、同西部中学校長を歴任した。音楽教育活動の傍ら作曲活動を続け、現在まで『うたのひろば』(昭和 57 年)、『合唱曲集「ほたるいかの歌」』(昭和 59 年)、『楽しいアンサン

ブル』(昭和 61 年)、『合唱組曲「富山の四季一山に富む街」(昭和 62 年)などを出版している。教科書『中学生の音楽 2・3 上』(教育芸術社)に、自ら作曲した『君に会えて』(編曲者の沢本俊一の沢本は、教育芸術社と関係が深い作曲家の黒沢吉徳、橋本祥路から一字ずつ取られており、実際は佐藤進本人である)が掲載された。

佐藤が作曲した富山県内の小学校校歌を制定年順に学校名で並べると次のようになる。

1963 (昭和 38) 年	30 歳	(富山市・富山第一高)
1978 (昭和 53) 年	44 歳	富山市・堀川南小
1983 (昭和 58) 年	49 歳	下新川郡入善町・上青小
1985 (昭和 60) 年	51 歳	富山市・桜谷小
1995 (平成 7) 年	61 歳	下新川郡入善町・ひばり野小
1999 (平成 11) 年	65 歳	旧東砺波郡平村・現南砺市・旧平小
2009 (平成 21) 年	75 歳	(旧東砺波郡平村・平中)
	不詳	氷見市・久目小

このうち、1963 (昭和 38) 年の富山第一高を除き、ほとんどが新設または統合時の制定である。1985 (昭和 60) 年の富山市・桜谷小は、それまで桜谷小児童歌が校歌のかわりに歌われていたが、創立 110 周年を記念して新たに校歌が作られたという経緯をもつ。

⑪團伊玖磨

團伊玖磨は、戦後のわが国を代表する作曲家である。1924 (大正 13) 年 4 月 7 日に東京の四谷で生まれ、1942 (昭和 17) 年に 18 歳で東京音楽学校に入学、1945 (昭和 20) 年の終戦の年に 20 歳で卒業している。2001 (平成 13) 年 5 月 17 日、中国蘇州市の病院で 77 歳で死去した。作品には、交響曲 7 曲 (第 7 番は未完)、歌劇『夕鶴』のほか、『花の街』などの歌曲、『ぞうさん』『おつかいありさん』『やぎさんゆうびん』などの童謡がある。全国の学校の校歌を数多く作曲していることでも知られる。

團が作曲した富山県内の小学校校歌を制定年順に学校名で並べると次のようになる。

1947 (昭和 22) 年	23 歳	〔『花の街』〕
1949 (昭和 24) 年	25 歳	〔『「夕鶴」付帯音楽』〕
1950 (昭和 25) 年	26 歳	〔『おつかいありさん』〕
1951 (昭和 26) 年	27 歳	(旧上新川郡大沢野町・現富山市・大沢野中、富山市・富山商業高)
1952 (昭和 27) 年	28 歳	滑川市・北加積小、中新川郡立山町・釜ヶ淵小、(魚津市・魚津高、高岡市・高岡高)
		〔『歌劇「夕鶴」』『ぞうさん』〕
1953 (昭和 28) 年	29 歳	(中新川郡立山町・旧立山中)
		〔『やぎさんゆうびん』〕
1955 (昭和 30) 年	31 歳	富山市・五福小
1957 (昭和 32) 年	33 歳	(旧婦負郡八尾町・現富山市・野積中、富山市・富山女子高)
1959 (昭和 34) 年	35 歳	富山市・富山大附属小
		〔『祝典行進曲』〕

1960 (昭和 35) 年 36 歳 富山市・奥田小

1961 (昭和 36) 年 37 歳 (旧上新川郡大沢野町・現富山市・大沢野工業高)

1966 (昭和 41) 年 42 歳 旧上新川郡大沢野町・現富山市・大沢野小、旧射水郡大門町・現射水市・大門小

1967 (昭和 42) 年 43 歳 (高岡市・伏木中)

1976 (昭和 51) 年 52 歳 (富山市・富山南高)

このうち、1952 (昭和 27) 年制定の滑川市・北加積小および中新川郡立山町・釜ヶ淵小、1955 (昭和 30) 年制定の富山市・五福小の校歌の作詞作曲者は同じ組み合わせである。北加積小学校によると、作詞者は、地域の名士だった高橋良太郎が俳句の師匠に相談したところ、その人物の師匠だった当時わが国の俳壇のトップ、荻原井泉水に依頼することになり、荻原井泉水が自ら作曲を團伊玖磨に依頼したという。従って、あとの 2 校においても同様な背景があったかもしれない。

奥田小の旧校歌は、戦前に作られたもので、歌詞の内容が時代に合わず、旋律も短調であったという理由により、昭和 34 年度の卒業生の卒業記念品として作られている。

また、旧上新川郡大沢野町・現富山市の大沢野小、大沢野中、大沢野工業高は、いずれも大島文雄作詞、團伊玖磨の作曲による。1つの市町村内で、小・中・高等学校が同じ作詞作曲者によるというのは珍しい。大沢野小は新校舎竣工式に合わせて、大沢野工業高は富山工業高大沢野分校からの独立公示記念として作曲されているが、同じ人物に作詞作曲を依頼するというのは、何らかの事情があったかもしれない。

IV 終わりに

小澤達三『富山県校歌全集』と富山県人づくり財団『校名・校章・校歌と教育への期待』に基づいて、富山県内の小学校校歌の作詞者と作曲者の特徴を明らかにすることができた。地域別に見ると、作詞作曲ともにその地域の名士によるものが非常に多く、なかでも校長経験者や首長経験者、元教員が多いという傾向が見られた。また、時代別に見ると、作詞者作曲者ともに時代が必要としていた時に相応しい人物が現れているような印象を受ける。戦後の新しい教育制度の時期、それから数十年がたって学校の統廃合が進んだ時期それぞれに、校歌を作詞作曲するにふさわしい名声と力量を備えた人物が現れているのである。その中で、作詞の大島文雄、作曲の黒坂富治は驚異的な作品の多さで傑出した存在であった。共に富山大学教授という公務をこなしながら、これだけの数の作詞や作曲を残したのは驚異的だといえる。また、そうして生み出された校歌が、現在もなお歌われているのは作者冥利に尽きるのではないか。

作曲者に関しては、室崎琴月が高岡市出身、宮下舜爾が高岡市在住だったことを除けば、数多くの校歌を生み出した黒坂富治、小澤達三、小澤慎一郎が下新川郡朝日町の出身、福井直秋が中新川郡上市町の出身、荒木得三、佐藤進が旧東砺波郡城端町・現南砺市の出身、大澤欽治が旧東砺波郡庄川町・現砺波市の出身であり、ともに富山県中心部から離れた地域の出身者であることが興味深い。

学校の統廃合一覧作成のために整理作業を進めていくなかで、統廃合によって他校に吸収された学校、休校となった学校の多さに改めて驚いている。学校関係者、保護者、児童、作詞者、作曲者の思いが詰まったこれらの校歌は、ただ思い出のなかにのみ生き続けるのである。ただ、気

がかりなのは、これらの校歌の楽譜がどうなったのだろうかという点である。調査を進めていくうちに、『富山県校歌全集』に掲載されていない小学校もあることがわかってきた。それらの校歌も永久に失われたままにされるのであろうか。

筆者は、校歌は立派な文化遺産であると思っている。富山県出身の作詞者や作曲者はもちろん、中央の文壇や楽壇で活躍した人物の作品が学校統廃合によって失われていいはずがない。これらの校歌はピアノ伴奏付きの楽譜でしかるべき場所に保存し、いつでも閲覧できる状況にすることが大切であると考えます。

また、『富山県校歌全集』に収録されている校歌はピアノ伴奏譜がつけられていないため、ピアノ伴奏譜が失われている校歌がある可能性がある。それらが今どこにあるのか調査していく必要があると考えます。

富山県人づくり財団では、『校名・校章・校歌と教育への期待』編集時に小・中・高等のすべての学校の校歌の楽譜を収集している。それらを含め、ピアノ伴奏譜付きの楽譜を過去から現在までできる限り収集しておく作業が急務なのではないかと考える。

本稿執筆中に、平成 25 年度末で高岡市・西広谷小が休校、平成 26 年度から南砺市・平小が上平小に統合、黒部市・東布施小と田家小が統合され「たかせ小」となることがわかった。また、魚津市においても、平成 28 年度から平成 35 年度にかけて現在ある小学校が「片貝小、吉島小、西布施小」「大町小、村木小、上野方小、本江小」「住吉小、上中島小、松倉小」「道下小、経田小」の 4 校に統合される案が出ている。これからもさらに学校の統廃合が進めば、校歌の楽譜の保存がより必要となってくるだろう。

本稿は小学校が調査対象だったが、今後は中学校、高等学校等にも調査を拡げていく必要があると感じている。また、幼稚園、保育所、福祉施設などにも対象を拡げていきたいと考えている。

なお、今回の調査結果内容については、誤りや抜けている点も多々あると思われる。各方面からのご教示を頂ければ幸いです。

〈参考文献〉

- ・小澤達三『富山県校歌全集』（1979 年、パラマウント社）
- ・富山県ひとづくり財団・富山県教育記念館編『校名・校章・校歌と教育への期待』（2010 年）
- ・同『富山県小学校校歴表』（2013 年）
- ・同『富山県小学校教育 140 年の歩み下巻』（2013 年）
- ・富山県芸術文化協会編『富山県芸術文化人名鑑』（1992 年、北日本新聞社）
- ・大島文雄先生追想録刊行会編『大島文雄先生追想録』（1992、岩波ブックサービスセンター）
- ・小澤慎一郎先生を偲ぶ会『小澤慎一郎先生を偲ぶ演奏会プログラム』（1991 年 6 月 16 日、富山市民プラザ アンサンブルホール）
- ・立山小学校創校 105 周年記念事業実行委員会『立山小学校百五年のあゆみ』（1978 年）
- ・立山町教育センター・立山区域小学校教育協議会『立山区域小・中学校 校歌集』（2013 年）
- ・富山市立山田小学校『譲里葉乃森 山田小学校～もう 1 つの沿革史』（2009 年）
- ・富山市立総曲輪小学校俵育友会創校百三十周年記念誌編集委員会『総曲輪小学校百三十周年記念誌』（2004 年）
- ・小羽小学校閉校記念誌編集委員会『こぼっこ 富山市立小羽小学校閉校記念誌』（2009 年）

- ・ 向川一夫『増補版 宮島 小矢部市宮島地区史抄』(2011年、編著者)
- ・ 小矢部市立石動小学校開校 40 周年記念事業実行委員会『石動小学校開校 40 年のあゆみ』(2006年)
- ・ 福野小学校中部教場『福野中部小学校誌』(1969年、福野小学校中部教場・小西信三)
- ・ 氷見市教育委員会『氷見のうた』(1995年、氷見市教育委員会)
- ・ 富山市立愛宕小学校『学舎は語る 愛宕っ子たちの姿』(2008年)
- ・ 砺波市立庄東小学校『はばたけ庄東っ子 二十年のあゆみ』(2002年)
- ・ 砺波市立砺波東部小学校創立 30 周年記念事業実行委員会『砺波市立砺波東部小学校創立 30 周年のあゆみ』(1991年)
- ・ 中田町誌編纂委員会『中田町誌』(1968年、中田町誌刊行会)
- ・ 高岡市立中田小学校三十周年記念事業協賛会『中田っ子のあゆみ』(1993年)
- ・ 早月川風土記の会『早月川風土記』(2008年、早月川風土記の会 代表八倉卷忠夫)
- ・ 上市町誌編纂委員会『上市町誌』(1970年)
- ・ 大岩小学校記念誌刊行委員会『大岩小学校記念誌』(1983年)
- ・ 太田郷土史編纂委員会『太田郷土史』(1987年、太田自治振興会)
- ・ 『富山の西洋音楽史』(<http://seesaawiki.jp/toyama-music/>)
- ・ 『琴月と冷光の時代』
(<http://rasensunisha.cocolonnifty/kingetsureikou/kingetsuryakunenpu.html>)
- ・ 『中山輝ウェブサイト 詩と民謡』(<http://www.nakayama.mobi/>)

〈資料〉富山県内小学校校歌作詞者・作曲者一覧

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経歴	作曲者	出身地	経歴
1	下. 朝日町	さみさと	1994		1994	こわせたまみ	埼玉県	絵本童話作家	中田 喜直	東京都	作曲家
2	同			五箇庄	1940	廣川 親義	入善町野中	歌人・朝日町教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
3	同			宮崎	1937	九里 道守	朝日町泊	歌人・鹿島神社宮司	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
4	同			境	1947	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
5	同			泊	1914	九里 道守	朝日町泊	歌人・鹿島神社宮司	加藤鹿太郎	朝日町泊	和歌山大・大阪音大教授
6	同			笹川	1948	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
7	同	あさひ野	1942		1942	伊藤 恭子	射. 津幡江	県内詩人	佐藤 進	城端町	作曲家・中学校長歴任
8	同			山崎	1929	山田 蕃	下. 山崎村	小学校長歴任・泊町教育委員長	杉江 秀		富山師範教諭
9	同			南保	1929	大菅 文治	朝日町泊	泊町長	田村 範一	中. 東三郷	愛知大教授
10	同			大家庄	1936	加藤鹿太郎	朝日町泊	和歌山大・大阪音大教授	加藤鹿太郎	朝日町泊	和歌山大・大阪音大教授
11	下. 入善町	黒東	1979		1979	森 清松	入善町	小学校教諭歴任	中村 義朗	金沢市	富大名誉教授・全日本合唱連盟理事長
12	同			新屋	1930	橋本 秀次	入善町新屋	金沢大教授	橋本 秀次	入善町新屋	金沢大教授
13	同			小摺戸	1928	柘田 秀郎	石. 珠洲市	高女校長歴任・富山女子短大教授	小澤 達三	朝日町泊	小学校長歴任
14	同	飯野			1963	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
15	同			旧飯野	大正	滝本 助造		校長在職時作詞	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
16	同	上青	1983		1983	山本 和夫	福. 小浜市	児童文学者・詩人	佐藤 進	城端町	作曲家・中学校長歴任
17	同			上原	1957	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
18	同			青木	1951	瀧田 清		小中学校長歴任(子ども会の歌)	瀧田 清		小中学校長歴任(子ども会の歌)
19	同	入善			1910	廣川 久秀	入善町	小学校教諭・青木村郵便局長	古瀬 紋吉	北般若村	富山女子師範・富山高女教諭
20	同	ひばり野	1995		1995	黒崎 洋子		小学校教諭・同校在職時作詞	佐藤 進	城端町	作曲家・中学校長歴任
21	同			舟見	1925	脇坂 邦作	入善町舟見	小学校長歴任	加藤鹿太郎	朝日町泊	和歌山大・大阪音大教授

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経 歴	作曲者	出身地	経 歴
22	下. 入善町			野中	1956	酒井 善一	入善町野中	歌人	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
23	同	桃李	1997		1997	山本 光代		初代校長	西脇 久夫	宮城県	ボニージャックス団員
24	同			横山	1953	大久保由光	朝日町	小学校長歴任	川上 幸平	朝日町	日本音楽協会会長・黒坂富治は実弟
25	同			檜山	1932	前田 普羅	東京都芝区	俳人・報知新聞富山支局長	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
26	黒部市	生地			1944	高階 哲夫	滑川市	作曲家・ヴァイオリン奏者	高階 哲夫	滑川市	作曲家・ヴァイオリン奏者
27	同	たかせ	右記		2014	川上 勝之		小学校長歴任・統合時の田家小校長	間部 栄司	黒部市	富山県内在住ピアニスト
28	同			東布施2014	1973	川端 三郎	黒. 生地	小学校長歴任	田原長五郎	入善町	県指導課長・中学校長歴任
29	同			↑尾山1973	1929	川端 三郎	黒. 生地	小学校長歴任	松島清太郎	宇奈月町	中学校長歴任
30	同			↑嘉例沢73	1970	酒井 銚光	魚. 松倉	詩人・県指導主事・小学校教頭	山崎 正俊	城端町	小学校長歴任
31	同			↑田籾1973	1964	吉沢 弘	黒. 植木	歌人・吉沢庄作の子	小林 昭三	富山県	作曲家・島根大教授
32	同			田家 2014	1962	川端 三郎	黒. 生地	小学校長歴任	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
33	同	石田			1928	川端 三郎	黒. 生地	小学校長歴任	橋本 秀次	入善町新屋	金沢大教授
34	同	村椿			1944	中田 憲政	入善町	俳人・元中学校長(吉本健一補作)	信時 潔	大阪府	作曲家
35	同	中央	1976		1977	河田 敏雄		初代校長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
36	同			大布施教場	1948	吉沢 庄作	魚. 西布施	俳人・旧制魚津中教諭	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
37	同			三日市教場	1948	吉沢 庄作	魚. 西布施	俳人・旧制魚津中教諭	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
38	同	三日市			1959	吉沢 弘	黒. 植木	歌人・吉沢庄作の子	室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽学校設立
39	同	前沢			1953	朝倉 豊次	黒. 前沢	海軍少将・黒部市初代教育長	橋本 秀次	入善町新屋	金沢大教授
40	同	荻生			1953	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
41	同	若栗			36-43	本瀬 広吉	黒. 若栗	小学校長歴任	本瀬 広吉	黒. 若栗	小学校長歴任
42	黒・宇奈月町	宇奈月	2006		2006	柴垣 光郎		富山県歌人連盟顧問	松本 清		作曲家・富山大教授・民之助の子
43	同			浦山	1936	栢田 秀郎	石. 珠洲市	高女校長歴任・富山女子短大教授	荒木 徳三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経歴	作曲者	出身地	経歴
44	黒・宇奈月町			下立	1952	舟川栄次郎	朝日町泊	詩人・泊図書館書記	米田 天海	入善町新屋	岐阜大教授
45	同			愛本	1951	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
46	同			旧宇奈月	1972	雪山 俊之	宇. 浦山	立命館大学・富山女子短大教授	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
47	魚津市	大町			1938	古屋 利之	石. 川北村	歌人・富山師範・石川師範教員	荒木 徳三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
48	同	村木			1935	古屋 利之	石. 川北村	歌人・富山師範・石川師範教員	橋本 秀次	入善町新屋	金沢大教授
49	同	住吉			1955	広瀬 新作	魚津市	小学校長歴任	柘崎 宗雄	魚津市	小学校長歴任
50	同	上中島			1952	浦田 三郎	魚津市	俳人・中学校長歴任・中教研会長	岡本 敏明	宮崎県	玉川大教授
51	同	松倉	2012		1960	酒井 銑光	魚津市松倉	詩人・県指導主事・小学校教頭	高木 晋朔	魚津市上口	小中学校教諭・吹奏楽を指導
52	同			坪野	1977	酒井 銑光	魚津市松倉	詩人・県指導主事・小学校教頭	小澤 達三	朝日町泊	小学校長歴任
53	同			白倉	1953	寺崎 文二	魚津市	小学校長歴任・校長在職中作詞	浜田 政二	入善町	小学校教諭・在職中に作曲
54	同	上野方			1958	寺崎 文二	魚津市	小学校長歴任・校長在職中作詞	吉田 一雄	魚津市	小学校長・教諭在職中に作曲
55	同	本江			1960	広瀬 新作	魚津市	小学校長歴任	奥村 修三		小・中学校教諭
56	同	片貝			1959	後藤 弘夫	魚. 中島尻	村の区長・森林組合長	片貝小学校		
57	同	吉島	1970		1975	高森 邦明	広島県	富山大教授(国語教育)	小澤 達三	朝日町泊	小学校長歴任
58	同			加積	不詳	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
59	同			天神	1958	楠 昭明	魚. 小川寺	小学校教諭	柘崎 宗雄	魚津市	小学校長歴任
60	同	道下			1959	大江 八郎	魚津市	魚津産業KK勤務(保護者)	内山 正之	黒部市	小学教諭・在職中(6-2 担任)作曲
61	同	経田			1955	廣瀬 勝男	魚津市	経田小教頭	経田小学校		
62	同	西布施			1953	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
63	滑川市	寺家			1948	高島 高	滑川市	詩人・医師	高田 三郎	愛. 名古屋市	作曲家
64	同	田中			1949	高島 高	滑川市	詩人・医師	高木 東六	鳥. 米子市	作曲家
65	同	東部	1968		1969	小林 謙	中国天津	詩人・県副知事	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経歴	作曲者	出身地	経歴
66	滑川市			浜加積	1949	古関 吉雄	福島市	作詞家・明治大学教授	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
67	同			早月加積	不詳	山岸 曙光	石. 輪島市	民謡詩人・富山日報・富山地鉄	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
68	同			旧早月加積	1904	川崎 清男	滑川市栗山	安田銀行・県公安委員・父は初代校長	山田 耕筈	東京都	作曲家
69	同	北加積			1952	荻原井泉水	東京都京橋	俳人	團 伊玖磨	東京都	作曲家
70	同	東加積			1947	山本 宗間	中. 東加積村	童謡・県教育委員長・東加積村長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
71	同	南部	1980		1980	宮沢 章二	埼. 羽生市	詩人・作詞家	岩河 三郎	富山市	作曲家
72	同			中加積	1941	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
73	同			山加積	1959	山本 宗間	中. 東加積村	童謡・県教育委員長・東加積村長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
74	同	西部	1977		1954	高島 高	滑川市	詩人・医師	平井康三郎	高知県	作曲家
75	同			西加積	1954	高島 高	滑川市	詩人・医師	平井康三郎	高知県	作曲家
76	中. 上市町	相ノ木			1951	高島 高	滑川市	詩人・医師	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
77	同	上市中央	1958		1960	古関 吉雄	福島市	作詞家・明治大学教授	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
78	同			上市尋常		古屋 利之	石. 川北村	歌人・富山師範・石川師範教員	荒木 徳三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
79	同			音杉		山本 宗間	中. 東加積村	童謡・県教育委員長・東加積村長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
80	同	南加積			1952	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
81	同	宮川			1960	古関 吉雄	福島市	作詞家・明治大学教授	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
82	同			宮川	不詳	福井 直俊		武蔵野音楽学園名誉学長・直秋の子	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長・母校
83	同	白萩西部			1987	佐伯外喜男	上. 横法音寺	民間会社相談役・作詞が趣味	岩河 三郎	富山市	作曲家
84	同			白萩西部	1953	山本 宗間	中. 東加積村	童謡・県教育委員長・東加積村長	小澤 達三	朝日町泊	小学校長歴任
85	同	陽南	1983		1983	清水 美晴	上市町	小高校長・県議・上市町長	渡辺 一郎	東京都	富山大教授
86	同			柿沢	1954	山本 宗間	中. 東加積村	童謡・県教育委員長・東加積村長	小澤 達三	朝日町泊	小学校長歴任
87	同			大岩	1952	山本 宗間	中. 東加積村	童謡・県教育委員長・東加積村長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経歴	作曲者	出身地	経歴
88	中・上市町			旧大岩	1909						
89	同		休校	白萩東部	1951	二宮 正篤	上市町	神職・上市高定時制主事	小澤 達三	朝日町泊	小学校長歴任
90	同		休校	白萩南部	1954	山本 宗間	中・東加積村	童謡・県教育委員長・東加積村長	小澤 達三	朝日町泊	小学校長歴任
91	中・立山町	立山北部	1964		1965	高瀬 重雄	立山町寺田	富山大名誉教授	大澤 欽治	庄川町	富山大教育学部長・名誉教授
92	同			新川東部	1953	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
93	同			新川西部	1952	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
94	同	立山中央	右記		1962	大石 修平	氷見市	富山師範学校教官・東京都立大	中田 喜直	東京都	作曲家
95	同			五百石 1959	1931	古関 吉雄	福島市	作詞家・明治大学教授	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
96	同			下段 1959	1950	古関 吉雄	福島市	作詞家・明治大学教授	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
97	同			大森 1967	1940	古屋 利之	石・川北村	歌人・富山師範・石川師範教員	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
98	同	高野			1952	古関 吉雄	福島市	作詞家・明治大学教授	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
99	同	利田			1915	不破 重常		富山師範学校卒	藤井幸治郎	立山町	小学教頭歴任・小学校長・在職時作曲
100	同	日中上野	2004		1953	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	一宮 道子	京都府	日本女子大名誉教授
101	同			東峯	1963	翁 久允	立山町	朝日新聞編集長・「高志人」主宰	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
102	同	新瀬戸			1935	樋口 義重	上市町	詩人・北日本新聞記者	佐伯 正一	立・五百石	三重大・名古屋大・名古屋学芸大教授
103	同	釜ヶ淵			1952	荻原井泉水	東京都京橋	俳人	團 伊玖磨	東京都	作曲家
104	同	立山	1975	＝千垣岩峠	1977	佐伯 有義	立・岩峠寺	国学院大学教授・神道学者	金山 方象	立山町	富山地鉄・富山観光協会常任理事
105	同			千垣	1922	佐伯 有義	立・岩峠寺	国学院大学教授・神道学者	金山 方象	立山町	富山地鉄・富山観光協会常任理事
106	同			岩峠	1922	佐伯 有義	立・岩峠寺	国学院大学教授・神道学者	金山 方象	立山町	富山地鉄・富山観光協会常任理事
107	同			旧立山芦峠	1957	前田鉄之助	東京都	詩人	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
108	同		休校	立山芦峠	1979	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	上埜 孝	小矢部市	読売日本交響楽団
109	同		休校	谷口	1948	柏 祐賢	立・四谷尾	京都産業大学長	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経 歴	作曲者	出身地	経 歴
110	中・舟橋村	舟橋		=舟橋中	1937	山林 清作	立山町	舟橋小校長・在職時作曲・現職で没	佐伯 正一	立. 五百石	三重大・名古屋大・名古屋学芸大教授
111	富山市 第1	岩瀬			1909	不 詳			不 詳		
112	同	針原			不詳	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
113	同	浜黒崎			1946	山本 俊直		浜黒崎小第 21 代目校長	山本 俊直		浜黒崎小第 21 代目校長
114	同	大広田			1950	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	荒木 徳三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
115	同	豊田			1955	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
116	同	萩浦			1954	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
117	同	四方			1907	竹脇 乙吉	射. 堀岡	第 5 代校長在職時作詞・四方町長	古瀬 紋吉	東. 北般若村	富山女子師範・富山高女教諭
118	同	八幡			1954	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
119	富山市			旧八幡	1935	川口 清	射・本江村	詩人・八幡小訓導・戦病死	小澤 達三	朝日町泊	小学校長歴任
120	富山市 第1	草島	1961		1961	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
121	同	倉垣			1961	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
122	富山市 第 2	新庄			1952	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
123	同	藤ノ木			1955	鈴木 正雄		歌人・山室小校長	村上与四郎	立山町	小学校教諭歴任・県共同募金会主事
124	同	広田			1954	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
125	同	水橋西部			1967	飯田虎次郎	富山市水橋	西水橋小校長・水橋町長	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
126	同	水橋中部			1961	角川 源義	富山市水橋	角川書店社長	青山 三郎	広島市	フェリス女学院・上野学園教員
127	同	水橋東部			1951	上田 正一	立. 五百石	小学校長歴任	小澤 達三	朝日町泊	小学校長歴任
128	同	三郷			1964	高瀬 重雄	立山町寺田	富山大名誉教授	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
129	同	上条			1966	杉木 方之	富山市水橋	小学校長歴任	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
130	同	新庄北	2010		2010	こわたまみ	埼玉県	絵本童話作家	岩河 三郎	富山市	作曲家
131	富山市 第 3	堀川			1969	石森 延男	北. 札幌市	児童文学者・昭和女子大教授	松本民之助		作曲家・松本清富山大教授は子

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経歴	作曲者	出身地	経歴
132	富山市 第3	堀川南	1977		1978	千代 宏	砺中町津沢	元堀川小・奈良女子大附属小教諭	佐藤 進	城端町	作曲家・中学校長歴任
133	同	山室			1909	田部 重治	富山市山室	「山と溪谷」執筆・明5卒業生	野口米次郎	富山市	熊本・前橋・長野師範学校教員
134	同	山室中部	1977		1977	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	大澤 欽治	庄川町	富山大教育学部長・名誉教授
135	同	蝮川			1953	里村 賢慶			川上 幸平	朝日町	日本音楽協会会長・黒坂富治は実弟
136	同	太田	1947		1955	小又 幸井		歌人・富山市助役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
137	富山市			太田尋常高	1915	澤木 茂正		石川県立七尾中学校教諭	高塚 鏗雨		富山県師範学校教諭
138	同			西番							
139	富山市 第3	熊野			1927	志田 義秀	富山市	第6高・成蹊高教授・俳諧史研究	幾尾 純	静岡県	奈良女高師訓導・助教授
140	富山市			旧熊野	1951	山本 宗間	中・東加積村	童謡・県教育委員長・東加積村長	牧田 吉隆	朝日町泊	小中学校長歴任・小澤慎一郎の弟
141	富山市 第3	月岡			1960	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
142	同	新保			1961	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	室崎 琴月	高岡市	作曲家
143	富山市4・旧大沢野	大沢野	2009		1966	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	團 伊玖磨	東京都	作曲家
144	富山市・旧大沢野			小羽	1969	藤田 漢子			橋本 佳子		小学校教諭歴任
145	富山市4・旧大山	大久保			1952	堀田 虎二	大沢野町	小学校長歴任・教諭在職時作詞	佐藤 秀信	大沢野町	小学校長歴任
146	同	船峯			1935	蝮川 行道	富山市	旧制中学教諭・全国商業学校校長会長	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
147	同	上滝	1969		1953	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
148	富山市・旧大山町			文殊寺	1953	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
149	富山市4・旧大山	大庄			1955	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	室崎 琴月	高岡市	作曲家
150	同	福沢			1953	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
151	同	小見			1954	野口 香開	大山町小見	大山町役場	末岡千鶴子		中学校教諭歴任
152	富山市・旧大山町			牧	1966	沖村 耕作	宇奈月町	歌人・小学校長歴任	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
153	富山市4・旧細入	神通碧	2003		2003	伊藤 敏博	新・直江津市	旧国鉄車掌・フォークソングライター	伊藤 敏博	新・直江津市	旧国鉄車掌・フォークソングライター

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経 歴	作曲者	出身地	経 歴
154	富山市・旧細入村			猪谷	不詳	相馬 御風	新 糸魚川市	詩人	小松 耕輔	秋田県	作曲家・教育家
155	同			楡原	1953	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
156	同			旧楡原	1943	志田 義秀	富山市	第6高・成蹊高教授・俳諧史研究	草川 信	長 松代町	作曲家
157	富山市5・旧婦中	速星			1954	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	古関 裕而	福島市	作曲家
158	同	鶯坂			1951	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
159	同	朝日			1954	五十嵐教苑	富山市北代	朝日村中堂寺住職・朝日村公民館長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
160	同	宮野	1961		1962	高瀬 重雄	立山町寺田	富山大名誉教授	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
161	富山市・旧婦中町			婦 熊野	1951	山本 宗間	中 東加積村	童謡・県教育委員長・東加積村長	牧田 吉隆	朝日町泊	小中学校長歴任・小澤慎一郎の弟
162	同			宮川	1931	清水 徳義	婦 宮川村	小学校長歴任・宮川村長	清水 徳義	婦 宮川村	小学校長歴任・宮川村長
163	富山市5・旧婦中	古里			1953	中塩 清臣		歌人・富山大助教授	室崎 琴月	高岡市	作曲家
164	富山市・旧婦中町			↑富川	1909	不 詳			不 詳		
165	富山市5・旧婦中	神保	1954		1954	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
166	富山市・旧婦中町			千里	1894	不 詳			不 詳		
167	富山市・旧宮川村			宮川	1909	不 詳			不 詳		
168	富山市5・旧婦中	音川			1935	若林 芳雄	婦 古里村	小学校長歴任・婦中町長	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
169	富山市5・旧山田	山田	右記		1938	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
170	富山市・旧山田村			宿坊 1964							
171	同			清水 1965		小向 五一		校長在職時作詞	小向 五一		校長在職時作曲
172	同			鍋谷 1972	1936	吉友 作造		昭和の初め・校長在職時作詞	松倉 求		富山師範附属小訓導
173	同			山田尋常	31/34	木村 彦蔵	八尾町	校長在職時2度作詞	木村 彦蔵	八尾町	校長在職時2度作曲
174	富山市5・旧八尾	八尾	右記		1934	清水 徳義	婦 宮川村	小学校長歴任・宮川村長	清水 徳義	婦 宮川村	小学校長歴任・宮川村長
175	富山市・旧八尾町		休校	桐谷小 1983	1953	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経 歴	作曲者	出身地	経 歴
176	富山市・旧八尾町			旧桐谷小	1930	白川 充象			白川 充象		
177	同			下笹原2003	1963	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
178	同		休校	大長谷1983	不詳	林 義操		小学校教諭歴任	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
179	同			仁歩 2003	1975	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
180	同			茗ヶ原1973	1954	蓮沢 清淳			小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
181	同			室牧 2003	1954	大石 修平	氷見市	富山師範学校教官・東京都立大	大澤 欽治	庄川町	富山大教育学部長・名誉教授
182	同		休校	広畑 1995	1942	古屋 利之	石. 川北村	歌人・富山師範・石川師範教員	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
183	同			野積 2003	1962	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
184	同			旧広畑	不詳	不 詳			不 詳		
185	同			旧八尾	不詳	不 詳			不 詳		
186	富山市5・旧八尾	杉原			1940	藤森 秀夫	長野県	歌人・早稲田大・明治大教授	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
187	同	保内			1946	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
188	同	檜尾			1954	寺津 幸司		詩人・呉羽小校長	田原長五郎	入善町	県指導課長・中学校長歴任
189	富山市 第6	桜谷			1985	酒井 耕三		小学校長歴任	佐藤 進	城端町	作曲家・中学校長歴任
190	富山市			旧桜谷	1950	平田 一郎	東. 大田区	富山大文理学部教授	大澤 欽治	庄川町	富山大教育学部長・名誉教授
191	富山市 第6	五福			1955	荻原井泉水	東京都京橋	俳人	團 伊玖磨	東京都	作曲家
192	同	神明			1971	阪田 寛夫	大阪府	詩人・小説家・大中恩とは従兄弟	大中 恩	東京都	作曲家・大中寅二の子
193	富山市			旧神明	不詳	不 詳			不 詳		
194	富山市 第6	呉羽			1939	風巻景次郎	兵庫県	北京輔仁大・関西大学教授	信時 潔	大阪府	作曲家
195	同	長岡			1955	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
196	同	寒江			1959	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
197	同	老田			1954	高島 高	滑川市	詩人・医師	平井康三郎	高知県	作曲家

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経歴	作曲者	出身地	経歴
198	富山市 第6	古沢			1960	松美 佐雄	群馬県	「日本童話連盟」組織	玉山 英光	東京都	みどり児童合唱団主宰
199	同	池多			1952	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
200	富山市 第7	芝園	右記	=芝園中	1951	大木 惇夫	広島市	本名軍一・詩人	山田 耕筈	東京都	作曲家
201	富山市			総曲輪2005	1950	藤村 作	福. 柳川	国文学者・東京大教授	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
202	同			総曲輪尋常		不破 重常		富山師範学校卒	信時 潔	大阪府	作曲家
203	同			安野屋2006	1947	高田 善治	富山市	小中校長歴任・教諭在職中作詞	高田 善治	富山市	小中校長歴任・教諭在職中作曲
204	同			八人町2005	1935	藤沢 米二		小学校長歴任	信時 潔	大阪府	作曲家
205	同			旧八人町	明治末	不破 重常		富山師範学校卒	古瀬 紋吉	東. 北般若村	富山女子師範・富山高女教諭
206	同			愛宕 2008	1952	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
207	同			旧愛宕		石場 健夫			荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
208	富山市 第7	西田地方			1952	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	小沢慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
209	同	中央 2008			2008	宮田 滋子	茨城県	詩人・日本童謡協会常任理事	岩河 三郎	富山市	作曲家
210	富山市		2004	星井町五番町	愛唱歌	片岡 輝	中国大連	詩人『風に向かい光に向かい』	岩河 三郎	富山市	作曲家『風に向かい光に向かい』
211	同			星井町2004	1963	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
212	同			清水町2009	1952	神保光太郎	山形県	詩人・独文学者・日大教授	佐々木すぐる	兵庫県	童謡作曲家
213	同			五番町2004	1961	サウハチロー	東京都	詩人・小説家・日本童謡協会会長	古関 裕而	福島市	作曲家
214	富山市 第7	柳町			1953	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
215	同	奥田			1960	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	團 伊玖磨	東京都	作曲家
216	同	奥田北	1969		1970	阪田 寛夫	大阪府	詩人・小説家・大中恩とは従兄弟	大中 恩	東京都	作曲家・大中寅二の子
217	同	東部			1948	寺津 幸治		詩人・呉羽小校長	広田 宙外		小中校長歴任・校長在職時作曲
218	同	光陽	2002		2002	宮田 滋子	茨城県	詩人・日本童謡協会常任理事	岩河 三郎	富山市	作曲家
219	射水市・旧新湊市	放生津			1949	島木 茂樹		小学校長歴任	下総 皖一	埼玉県	作曲家

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経 歴	作曲者	出身地	経 歴
220	射水市・旧新湊市			放生津尋常	1917	不 詳			不 詳		
221	同	新湊	2010		1946	相馬 御風	新 糸魚川市	詩人	信時 潔	大阪府	作曲家
222	同			中伏木	1953	同校PTA			室崎 琴月	高岡市	作曲家
223	同	作道			1959	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	橋本 秀次	入善町新屋	金沢大教授
224	同	片口			1952	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	室崎 琴月	高岡市	作曲家
225	同	堀岡			1953	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
226	同	東明	1974		1975	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	森川 隆之	砺波市	和歌山大教授
227	同			海老江	1931	相馬 御風	新 糸魚川市	詩人	岡野 貞一	鳥取県	作曲家
228	同			本江	1950	川口 清	射・本江村	詩人・八幡小訓導・戦病死	不 詳		
229	同			七美	不詳	伏脇 俊岩		高等小・高女等校長歴任	佐々木尚矩	婦. 八幡村	高岡高女教諭
230	同	塚原			1941	野村 豊繁	高岡市	高校教諭歴任	野村 豊繁	高岡市	高校教諭歴任
231	射水市・旧小杉町	小杉	1971		1973	二俣 重橋	小杉町戸破	小学校長歴任・在職時作詞	岩河 三郎	富山市	作曲家
232	同			大江	1954	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長			
233	同	金山小			1957	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
234	同	歌の森	1983		1983	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	大澤 欽治	庄川町	富山大教育学部長・名誉教授
235	同			黒河	不詳	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
236	同	太閤山	2002		2002	伊藤 敏博	新 直江津市	旧国鉄車掌・フォークソングライター	伊藤 敏博	新 直江津市	旧国鉄車掌・フォークソングライター
237	同			太閤山	1973	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
238	同			橋下条	1954	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
239	同	中太閤山	1978		1978	渡辺 孝	小杉町	小杉町長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
240	射水市・旧大門町	大門	右記		2006	曾野 綾子	東京都	作家	池辺晋一郎	茨. 水戸市	作曲家
241	同			大門 1962	1966	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	團 伊玖磨	東京都	作曲家

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経 歴	作曲者	出身地	経 歴
242	射水市・旧大門町			二口 1962	1959	藪田 義雄	神. 小田原	詩人・北原白秋門下	松本民之助		作曲家・松本清富山大教授は子
243	同			榎田 1962	1919	浅田 こと	福光町	富山師範附属小訓導	島田乙之丞	富山市	小学校長歴任・在職時作曲
244	同			旧大門 1962	1955	西條 八十	東京都	詩人・早大教授	古関 裕而	福島市	作曲家
245	同			水戸田 1962	不詳	古屋 利之	石. 川北村	歌人・富山師範・石川師範教員	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
246	同			浅井 2006	1913	荒井 玄策	射. 下条村	小学校長・村会議員	大西 松世		
247	射水市・旧下村	下村			1953	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
248	射水市・旧大島町	大島			1933	田口俵太郎	高. 伏木	射. 佐野小学校長・訓導	田村 虎蔵	鳥取県	音楽教育家・唱歌集出版
249	高岡市 第 1	国吉			1958	西條 八十	東京都	詩人・早大教授	佐々木 丈ぐる	兵庫県	童謡作曲家
250	同	東五位			1955	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽学校設立
251	高岡市 第 1	石堤			1961	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽学校設立
252	高岡市		休校	西広谷 2014	1962	廣川 親義	入善町野中	歌人・朝日町教育委員長	宮下 舜爾	樺太	作曲家・北日本放送社長室長
253	高岡市1・旧福岡	福岡	1965		1968	岡田 宅平	福岡町	小学校長歴任	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
254	高岡市・旧福岡町			旧福岡	1907	不 詳			不 詳		
255	高岡市・旧福岡町			大滝	不詳	不 詳			不 詳		
256	同			西五位	1962	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
257	同			砺丘冬期分校	不詳	不 詳			不 詳		
258	同			山王	1949	柴田 富治	福岡町	小学校長歴任	室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽学校設立
259	同			赤丸	1958	川人 貞現	福岡町	高校校長歴任	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
260	同			測ヶ谷 2003	1956	石崎 恒夫	福光町	小学校長歴任	盛田 満		同校助教諭・在職時作曲
261	高岡市 第 2	横田			1910	小林 守直	高岡市	高. 平米小学校長	田村 虎蔵	鳥取県	音楽教育家・唱歌集出版
262	同	博労			1955	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽学校設立
263	同	西条			1951	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽学校設立

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経 歴	作曲者	出身地	経 歴
264	高岡市 第2	千鳥丘	1965		1968	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	大澤 欽治	庄川町	富山大教育学部長・名誉教授
265	高岡市			立野	1956	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
266	高岡市			小勢	1954	室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽学校設立	室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽学校設立
267	高岡市 第2	木津	1982		1982	高瀬 重雄	立山町寺田	富山大名誉教授	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
268	高岡市 第3	成美			1955	土岐 善麿	東京都浅草	歌人	信時 潔	大阪府	作曲家
269	同	川原			1921	小林 守直	高岡市	高. 平米小校長・当校長在職時作詞	室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽学校設立
270	同	万葉	1979		1979	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	宮下 舜爾	樺太	作曲家・高校教諭・KNB社長室長
271	高岡市			二上	1951	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
272	同			守山	大正	相馬 御風	新. 糸魚川市	詩人	不 詳		
273	高岡市 第3	能町			1934	大熊 信行	山. 米沢市	富山大・神奈川大経済学部長	田中 穰	香川県	高岡高女教諭
274	高岡市			旧能町	明治	不 詳			不 詳		
275	高岡市 第4	定塚			1931	藤森 秀夫	長野県	歌人・早稲田大・明治大教授	杉江 秀		富山師範学校教諭
276	同	平米			1929	小林 守直	高岡市	高. 川原小・平米小学校長	室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽学校設立
277	同	下関			1960	橋本 秀次	入善町新屋	金沢大教授	橋本 秀次	入善町新屋	金沢大教授
278	同	二塚			1943	山崎 正二	高. 伏木	小学校長歴任	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
279	同	野村			不詳	野村 豊繁	高岡市	高校教諭歴任	野村 豊繁	高岡市	高校教諭歴任
280	高岡市 第5	伏木			89-912	野村 範家	上. 大広田村	伏木尋常高等小校長在職時作詞	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
281	同	古府			1940	鴻巣 盛広	岐. 高山市	第四高教授	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
282	同	牧野			1957	正木 遠音	東京都	作曲家・長谷川良夫の筆名	長谷川良夫	東京都	作曲家・東京芸大教授
283	同	太田			1935	古屋 利之	石. 川北村	歌人・富山師範・石川師範教員	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
284	高岡市 第6	南条	1970		1970	高瀬 重雄	立山町寺田	富山大名誉教授	室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽学校設立
285	高岡市			佐野	1950	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽学校設立

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経歴	作曲者	出身地	経歴
286	高岡市			福田	1929	佐々木信綱	三. 鈴鹿市	歌人	永井 幸次	鳥取県	大阪音楽学校設立・同大初代学長
287	高岡市 第6	戸出東部	1966		1968	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	大澤 欽治	庄川町	富山大教育学部長・名誉教授
288	高岡市			戸出	1959	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
289	同			戸出尋常高小	1928	鴻巣 盛広	岐. 高山市	第四高教授	岡野 貞一	鳥取県	作曲家
290	同			北般若	1954	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	松本民之助		作曲家・松本清富山大教授は子
291	同			北般若高小	1908	宮城 三郎		富山師範学校卒業生	古瀬 紋吉	北般若村	富山女子師範・富山高女教諭
292	高岡市 第6	戸出西部	1961		1963	菊池 靖雄	戸出町	福野高・砺波高教頭歴任	森川 隆之	砺波市	和歌山大教授
293	高岡市			戸出	1959	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
294	同			醍醐 1954							
295	同			是戸							
296	同			戸出尋常高小	1928	鴻巣 盛広	岐. 高山市	第四高教授	岡野 貞一	鳥取県	作曲家
297	高岡市 第6	中田	1964		1966	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	森川 隆之	砺波市	和歌山大教授
298	高岡市			旧中田	1953	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	大坪 喜作		
299	同			般若野							
300	氷見市	朝日丘	1962		1965	辻本 俊夫	氷見市	詩人・伏木工事事務所勤務	同校音楽部		大澤欽治補作
301	同			南		和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
302	同			上伊勢		上伊勢小			上伊勢小		
303	同	比美乃江	2006		2006	比美乃江小			千葉 佑	岩. 一関市	玉川大学講師
304	同			東	1934	古屋 利之	石. 川北村	歌人・富山師範・石川師範教員	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
305	同			上余川	1967	辻本 俊夫	氷見市	詩人・伏木工事事務所勤務	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
306	同			懸札		青山 外二			矢後 昭久		
307	同			加納	1953	高峯 正岡	氷見市	光伝寺住職・氷見高校長	三木 乗俊	氷見市	高校教諭歴任

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経 歴	作曲者	出身地	経 歴
308	氷見市			一芻	1952	釜田 弘文	氷. 上余川	中学校長歴任	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
309	同			余川	1957	嶋畑 貫通		余川小校長	三木 乗俊	氷見市	高校教諭歴任
310	同			稲積	1963	辻本 俊夫	氷見市	詩人・伏木工事事務所勤務	小川 信子	氷見市	稲積小在職時作曲・大澤欽治補作
311	同	宮田			1939	伏脇 俊岩		高等小・高女等校長歴任	二本 幸作	氷見市	小学校長歴任
312	同	窪			1965	高峯 正岡	氷見市	光伝寺住職・氷見高校長	伊藤 弘		小学校教諭歴任
313	同	湖南	1972		1973	山崎 平樹	氷見市	小学校長歴任・校長在職時作詞	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
314	同			神代		不 詳			不 詳		
315	同			布勢 1915	1925	伏脇 俊岩		高等小・高女等校長歴任	不 詳		
316	同			仏生寺2011	1974	屋鋪 善弘	氷. 柳田	仏生寺小校長	中川 暁子		小学校教諭歴任・在職時作曲
317	同	十二町			1974	多胡 羊茵	氷. 胡桃	童謡詩人・北原白秋に師事	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
318	同	上庄			1941	余川久太郎	氷. 比美町	氷見郡内小訓導歴任	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
319	同	明和	1963		1967	高峯 正岡	氷見市	光伝寺住職・氷見高校長	池田 祐孝	富山市	富山アカデミー女声合唱団指揮者
320	同			論田		な し			な し		
321	同			谷屋		村田 勝郎			上坊寺繁一		
322	同			熊無村高等		古屋 利之	石. 川北村	歌人・富山師範・石川師範教員	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
323	同	速川	1992		1992	武内 雷龍			坂本 博士		
324	同			小久米	不詳	不 詳			荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
325	同			床鍋	不詳	不 詳			不 詳		
326	同	久目	右記		1990	久々湊俊治			佐藤 進	城端町	作曲家・中学校長歴任
327	同			池田 1990	1933	森田 忠俊	氷. 新保	池田小訓導	森田 忠俊	氷. 新保	池田小訓導
328	同			赤毛 1997		村田 勝郎			土倉 章子		
329	同			岩瀬 1990	1963	村田 豊二	氷. 島尾	小高校長歴任・氷見市教育長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経 歴	作曲者	出身地	経 歴
330	氷見市	海峰	右記		1996	高峯 正岡	氷見市	光伝寺住職・氷見高校長	池永 哲郎	氷見市	中学校教諭歴任
331	同			阿尾 1996	1968	多胡 羊歯	氷. 胡桃	童謡詩人・北原白秋に師事	上野 純子		中学校教諭歴任
332	同			八代 2000	1971	屋鋪 善弘	氷. 柳田	仏生寺小校長	池永 哲郎	氷見市	中学校教諭歴任
333	同			藪田 1996	1958	前田 義明	高岡市	藪田小・宮田小校長歴任	二本 幸作	氷見市	小学校長歴任・氷見市音楽協会設立
334	同			角間 1995		井山 弘比	氷見市鞍川	小学校長歴任・氷見市社会教育委員	土谷美千代		
335	同	灘浦	2011		2011	灘浦小学校			友井賢太郎		キーボード奏者・音楽事務所主宰
336	同			宇波	1965	越田 毅	氷見市	宇波小等校長歴任・在職時作詞	越田 毅	氷見市	宇波小等校長歴任・在職時作曲
337	同			女良	1969	辻本 俊夫	氷見市	詩人・伏木工事事務所勤務	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
338	同			↑中田 1967							
339	同			↑中波 1967							
340	同			↑長坂 1967							
341	小矢部市	石動	右記		1967	啜 文平	金沢市	木村外吉・北日本新聞後文壇入	上埜 孝	小矢部市	読売日本交響楽団
342	同			旧石動	1953	勝 承夫	東京都	詩人・報知新聞学芸部長	橋本 秀次	入善町新屋	金沢大教授
343	同			埴生 1965	不詳	不 詳			不 詳		
344	同			安楽寺 1965	不詳	不 詳			不 詳		
345	同			岩尾滝 2008	不詳	春藤 俊平	金沢市	石川県内高女・旧制中学教諭	鶴来 清彦	金沢市	ハレルヤ音楽院設立
346	同	大谷	1966		1971	木村 外吉	金沢市	北日本新聞論説委員後文壇入	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
347	同			正得	不詳	木村 外吉	金沢市	北日本新聞論説委員後文壇入	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
348	同			荒川	不詳	木村 外吉	金沢市	北日本新聞論説委員後文壇入	橋本 秀次	入善町新屋	金沢大教授
349	同			松沢	不詳	木村 外吉	金沢市	北日本新聞論説委員後文壇入	室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽学校設立
350	同			若林	不詳	浅田 こと	福光町	富山師範附属小訓導	沼崎 花	北海道	砺波高女・石動高女教諭
351	同	東部	1968		1961	木村 外吉	金沢市	北日本新聞論説委員後文壇入	宮下 舜爾	権太	作曲家・高校教諭・KNB社長室長

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経歴	作曲者	出身地	経歴
352	小矢部市			宮島	1951	宮島小学校			宮下 舜爾	樺太	作曲家・高校教諭・KNB社長室長
353	同	蟹谷	1979		1979	松本 正雄	小、東蟹谷村	小矢部市長	西澤 昭男		
354	砺波市			藪波	1967	名越 栄雄		東蟹谷村長・砺中町助役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
355	同			北蟹谷	1960	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
356	同			旧北蟹谷	～1960				石井 久雄		
357	同			東蟹谷	1949	東蟹谷小学校			橋本 秀次	入善町新屋	金沢大教授
358	同			同内山分校	1975	矢後 恭子	福岡町	小学校教諭・在職時作詞	矢後 恭子	福岡町	小学校教諭・在職時作曲
359	同	津沢	1981		1981	松本 正雄	小、東蟹谷村	小矢部市長	浦田健次郎	東京都	作曲家
360	同			旧津沢	1933	河合 正則	福野町	旧制砺波中学・砺波高女教諭	沼崎 花	北海道	砺波高女・石動高女教諭
361	同			水島	1954	吉波 彦作	福光町	砺波中学校長	宮下 舜爾	樺太	作曲家・高校教諭・KNB社長室長
362	同	出町			1940	乗杉 嘉壽	砺. 出町	東京音楽学校長・日本教育音楽協会会長	岡野 貞一	鳥取県	作曲家
363	同	庄南 1979				渡辺 英二		富山大教授	渡辺 一郎	東京都	富山大教授
364	同			中野	1909	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
365	同			砺波東部伏門							
366	同			太田	1968	水上 秀夫	砺波市	太田小校長	武部由美子		小学校教諭歴任
367	同	砺波東部	1963		1968	小林 謙	中国天津	県副知事・県現代詩人の会会員	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
368	同			庄下	1933	根尾長次郎	砺. 矢木	県議会議長・庄下村長・大牧温泉	岡野 貞一	鳥取県	作曲家
369	同			庄西南部	1968	水上 秀夫	砺波市	太田小校長	武部由美子		小学校教諭歴任
370	同			庄西北部							
371	同			油田	1957	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	大澤 欽治	庄川町	富山大教育学部長・名誉教授
372	同	砺波北部	1971		1972	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	宮下 舜爾	樺太	作曲家・高校教諭・KNB社長室長
373	同			若林	不詳	浅田 こと	福光町	富山師範附属小訓導	沼崎 花	北海道	砺波高女・石動高女教諭

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経 歴	作曲者	出身地	経 歴
374	砺波市			林							
375	同			高波							
376	同	砺波南部	1985		1995	青塚 与市	射. 堀岡	詩人・高校長	渡辺 一郎	東京都	富山大教授
377	同			東野尻	1953	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
378	同			五鹿屋	1974	永森 文秀	砺. 頼成	中高校長歴任・砺波市教育長	中島 礼子	砺波市	小学校教諭歴任・在職時作曲
379	同	庄東	右記		1982	渡辺 英二		富山大学教授	渡辺 一郎	東京都	富山大教授
380	同			般若 1969	1952	永森 文秀	砺. 頼成	中高校長歴任・砺波市教育長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
381	同			東般若 1982	1958	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
382	同			梅檀山 1969		永森 文秀	砺. 頼成	中高校長歴任・砺波市教育長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
383	同			梅檀野 1982	1959	片桐 大自	長・島原市	学校図書KK編集部長・監査役	井上 武士	群馬県	日本教育音楽協会理事長
384	同	鷹栖			1950	宮木 康政	砺. 鷹栖	神職・旧制中学・高女等教諭歴任	大澤 欽治	庄川町	富山大教育学部長・名誉教授
385	砺波市・旧庄川町	庄川	1965		1968	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	大澤 欽治	庄川町	富山大教育学部長・名誉教授
386	同			東山見	不詳	不 詳			森川 隆之	砺波市	和歌山大教授
387	同			雄神	1955	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	大澤 欽治	庄川町	富山大教育学部長・名誉教授
388	同			青島	1956	野村 玉枝	福光町	歌人・佐々木信綱「竹柏会」会員	大澤 欽治	庄川町	富山大教育学部長・名誉教授
389	同			種田	1954	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
390	南砺市・旧城端町	城端	1966		1972	州崎 哲二	城端町	開業医・「城端史」執筆	中田 喜直	東京都	作曲家
391	同			南山田	1961	藤井 一男	砺. 上中野	書道家・小学校長歴任	杉原 芳枝	井波町	小中学校教諭歴任・杉原茂は夫
392	同			蓑谷	1910	石場 建男		本名松岡竹次郎・県師範学校教員	不 詳		
393	同			大鋸屋	1957	州崎 哲二	城端町	開業医・「城端史」執筆	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
394	同			北野	1948	西部 鷗杜	東. 野尻村	小学校長歴任・福野町教育長	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
395	南砺市・旧上平村	上平	2014		1977	安力川甚治	城端町	小学校長歴任	上埜 是清		

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経 歴	作曲者	出身地	経 歴
396	南砺市・旧上平村			皆葎 1977	1947	宮崎 貞吉	平村	小学校長歴任	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
397	同			西赤尾 1977	1947	石田外茂一	金沢市	上平中校長	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
398	南砺市・旧平村			平 1999	1999	渡辺 英二		富山大学教授	佐藤 進	城端町	作曲家・中学校長歴任
399	同			↑下梨	1957	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究大家	大澤 欽治	庄川町	富山大教育学部長・名誉教授
400	同			↑東中江	1966	南谷 虎雄	平村	平村役場勤務・退職後平村教育長	藤井 静洩	井口村	利賀小校長
401	南砺市・旧利賀村	利賀	1996		1996	谷内 義弘	利賀村	京南砺利賀享友会会員	岩河 三郎	富山市	作曲家
402	同			旧利賀	1962	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽学校設立
403	同			坂上	1973	片山佐太郎		小中教頭歴任	松井 良平	庄川町	小中教諭歴任・合唱吹奏楽指導
404	南砺市・旧井波町	井波	1970		1970	島田 憲一	砺. 梅檀野	小学校長歴任・校長在職時作曲	森川 隆之	砺波市	和歌山大教授
405	同			山野	1917	不 詳			不 詳		
406	同			高瀬	1956	土田 行丸	東. 高瀬村	金沢新報論説委員長	大澤 欽治	庄川町	富山大教育学部長・名誉教授
407	同			南山見	不詳	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
408	南砺市・旧井口村	井口			不詳	井口小学校			森川 彦治	庄川町	大澤欽治の兄・山田小校長
409	南砺市・旧福野町	福野	1967		1969	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
410	同			福野南部	1917	西能源四郎	福野町	県会・衆議院議員・両砺銀行設立	長橋熊次郎		広島高等師範教官
411	同			↑旧広塚	1917	西能源四郎	福野町	県会・衆議院議員・両砺銀行設立	長橋熊次郎		広島高等師範教官
412	同			福野中部							
413	同			↑福野北部							
414	同			↑高瀬1957	1956	土田 行丸	東. 高瀬村	金沢新報論説委員長	大澤 欽治	庄川町	富山大教育学部長・名誉教授
415	同			↑福野東部							
416	同			↑安居1964	1952	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
417	同			福野西部	1974	北島助三郎	福光町	中山輝の詩と民謡社創立に参加	杉原 茂	福野町	小中学校教諭歴任・杉原芳枝は妻

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経 歴	作曲者	出身地	経 歴
418	南砺市・旧福野町			↑東石黒	1916	定村 菁萍			長谷山峻彦	岡. 高梁町	筆名米川正夫・ロシア文学者
419	同			↑野尻	1937	前田 普羅	東京都芝区	俳人・報知新聞富山支局長	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県下音楽界に貢献
420	南砺市・旧福光町	福光中部	1977		1977	安カ川甚治	城端町	小学校長歴任	大島 正尚	福光町	中学校教諭歴任
421	同			福光	1909	浅田 こと	福光町	富山師範附属小訓導	古瀬 紋吉	北般若村	富山女子師範・富山高女教諭
422	同			広瀬	1915	浅田 こと	福光町	富山師範附属小訓導	古瀬 紋吉	北般若村	富山女子師範・富山高女教諭
423	同			石黒	1968	河合 十郎	福光町	俳人	古瀬 紋吉	北般若村	富山女子師範・富山高女教諭
424	同			福光西部		北島助三郎	福光町	中山輝の詩と民謡社創立に参加	杉原 茂	福野町	小中学校教諭歴任・杉原芳枝は妻
425	同			↑砂子谷74		渡辺 八郎			白井 威彦		広島県立国泰寺高校教諭
426	同			↑土山1974		永森 文秀	砺. 頼成	中高校長歴任・砺波市教育長	満田 賢二		
427	同	福光南部	1970		1971	鶴野 直輔	福光町	福光南部小・吉江中学校長歴任	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
428	同			東太美	1961	野村 玉枝	福光町	歌人・佐々木信綱「竹柏会」会員	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
429	同			広遊館		鎌谷 又平		小学校長歴任	中嶋 真乙		
430	同			太美山					中嶋 真乙		
431	同			西太美	1916	富樫 昌胤	福光町	旧制高岡中教諭・氷見中教頭	大西 安正	東京都	石川県師範学校教諭
432	同			太美	1957	大島 文雄	富山市岩瀬	富山大名誉教授・富山市教育委員長			
433	同	福光東部	1982		1982	北島助三郎	福光町	中山輝の詩と民謡社創立に参加	大島 正尚	福光町	中学校教諭歴任
434	同			吉江	1909	喜志摩豊生	西. 吉江村	水橋小校長・県富山高女教諭	古瀬 紋吉	北般若村	富山女子師範・富山高女教諭
435	同			山田	1963	野村 玉枝	福光町	歌人・佐々木信綱「竹柏会」会員	森川 隆之	砺波市	和歌山大教授
436	同			北山田	1963	荒井 光隆	東. 北山田村	北陸朝日新聞記者・北山田村会議員	森川 隆之	砺波市	和歌山大教授
437	富山市	富山大附属			1959	大石 修平	氷見市	富山師範学校教官・東京都立大	團 伊玖磨	東京都	作曲家